

令和7年度

日臨技中部圏支部医学検査学会(第63回)

最前線

One step forward



会期

2025年11月1日(土)・2日(日)

会場

三重県総合文化センター

学会長

宇城 研悟(松阪市民病院)

実行委員長

別所 裕二(菰野厚生病院)

プログラム

主催:一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会中部圏支部 担当:一般社団法人 三重県臨床検査技師会

開催概要

学会名称・テーマ

令和 7 年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第 63 回）

「 最前線 ～ One step forward ～ 」

会 期

令和 7（2025）年 11 月 1 日（土）・2 日（日）

会 場

三重県総合文化センター

三重県津市一身田上津部田 1234 番地 TEL：059-233-1111

主催及び開催担当

主 催：一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 中部圏支部

開催担当：一般社団法人 三重県臨床検査技師会

学会長

宇城 研悟

（松阪市民病院 医療技術部）

実行委員長

別所 裕二

（JA 三重厚生連三重北医療センター菰野厚生病院 中央検査科）

副実行委員長

広瀬 逸子

（社会医療法人峰和会 鈴鹿回生病院 臨床検査課）

事務局長

坂下 文康

（地方独立行政法人 三重県立総合医療センター 中央検査部）

事務局

地方独立行政法人 三重県立総合医療センター 中央検査部

〒510-8561 三重県四日市市大字日永 5450-132

令和 7 年度日臨技中部圏支部医学検査学会 (第 63 回)

プログラム

目次

ご挨拶	P2
三重県総合文化センターへの交通案内	P5
会場案内図	P6
Web 抄録のご案内	P7
日程表	P9
令和 7 年度日臨技中部圏支部医学検査学会 (第 63 回) 運営のお知らせ	P13
ピックアップインフォメーション	P19
特別企画一覧	P21
特別講演	P23
会長基調講演	P26
日臨技企画	P27
支部シンポジウム	P28
シンポジウム	P29
教育カンファレンス	P35
部門企画	P42
一般演題目次	P51
学術奨励賞 受賞者	P59
ランチョンセミナー	P60
ミニランチョンセミナー	P63
三重県企画	P64
学生フォーラム	P73
次回予告	P75
日臨技中部圏支部医学検査学会 開催地一覧	P76
学会協賛企業一覧	P77
令和 7 年度日臨技中部圏支部医学検査学会 (第 63 回) 学会役員一覧	P80

令和 7 年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第 63 回）の開催にあたって



令和 7 年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第 63 回）

学会長 宇城 研悟

（一般社団法人 三重県臨床検査技師会 会長）

この度、令和 7 年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第 63 回）を一般社団法人三重県臨床検査技師会担当のもと、2025 年 11 月 1 日（土）～ 2 日（日）の 2 日間、三重県総合文化センター（津市）において対面式学会を開催する運びとなりました。

本学会では、主に愛知県・岐阜県・静岡県・石川県・富山県・三重県といった中部圏で幅広く活躍する臨床検査技師が集い、臨床検査を取り巻く課題と今後進むべき未来を一緒に考えることができる学会を目指しております。皆さまにとって有意義な学会になるように関係者一同が準備を進めてまいります。

学会テーマは「最前線 ～ One step forward ～」といたしました。我々は日々進歩する臨床検査技術に対応するため学び続けることが求められます。それと同時に、タスク・シフト/シェアの推進や働き方改革、少子高齢化、物価高騰、災害・国際紛争など様々な社会情勢や課題に向き合いながら、日常業務に取り組んでおります。最先端でなくても日常業務で携わっている一人ひとりの業務が、今の臨床検査の「最前線」です。臨床検査技師が国民に信頼され日本の医療に必要とされ続けるために、一人ひとりの目の前にある「最前線から一步前に踏み出す」ことの必要性を強く感じております。

この学会が皆さまの明日の一步に繋がる機会とし、多くの企画を考えております。そのため、一般演題ではポスター発表の割合を多くし、口演発表は一会場に集約するなど、参加者が学べる機会を増やすスタイルを予定しております。そして、ご協賛していただく企業様と一緒に学会を盛り上げていけるような企画も考えております。

開催地の「津」という地名は、港を意味する言葉で、江戸時代初期に「安濃津」という港が、省略されて「津」となりました。自然、歴史、そして海の幸や牛肉を中心に多様な食文化をお楽しみいただけたらと存じます。紅葉が染まり始める三重の地で皆様とお目にかかることをとても楽しみにしております。

令和 7 年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第 63 回）の開催にあたって



一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

代表理事会長 横地 常広

平素より、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会（以下、日臨技と略す）の活動に対し、ご理解、ご協力をいただき心より感謝申し上げます。本学会が、一般社団法人三重県臨床検査技師会の宇城 研悟会長の下で、メインテーマ「最前線～ One step forward ～」として開催されますことを会員の皆様とともに喜び申し上げます。学会は、我々臨床検査技師の根幹である「検査データの品質保証」に向けた取り組みの一つであり、日々進歩する検査技術に対し卒後教育の一環として、医療機関などで活躍する先生方の「技術・知識」の研鑽の場でもあります。近隣で働く先輩方、同僚、後輩たちと日々抱える課題について情報共有するコミュニティーの場として活用いただきたいと思います。さて、我々を取り巻く医療環境は一層厳しさを増し、2024 年度診療報酬改定後も、医業収益は改善されておらず、多くの医療機関で悪化したという調査結果が示されています。医療収益は微増にとどまる一方、物価高騰、賃金上昇が経営を圧迫し、それ以上の経費増で赤字経営に陥っています。医師会をはじめとする職能団体、日本病院団体協議会を中心に社会保障予算編成の基本的な考え方である「高齢化の伸びの範囲にとどめる」という目安対応を廃止し、物価高騰、賃金上昇に応じて適切に対応する新たな仕組みづくりの導入を訴え緊急行動が展開され、我々職能団体も賛同し活動に参加しております。このような中、我々臨床検査技師は「医師の働き方改革」をトリガーとして進められている「タスク・シフト/シェア」を前向きにとらえ、自施設の実情に合わせて、技術革新、デジタル技術の導入に積極的に関わり、限られた人財で、「いかに検査室の生産性を上げるか」を目指した「臨床検査 DX」への取り組みが必要であり、業務の効率化による人員確保に努め、臨床検査技師が必要とされる場所で、医療スタッフから「信頼してタスクシェアできる臨床検査技師」の育成に向けた「キャリア支援」に日臨技として取り組んでまいります。本学会は三重県技師会により、時世にあった特色ある企画と円滑な学会準備が進められ、会員の皆様への最新の情報提供、会員の皆様方の研究成果を発表する場として、ぜひ活用されることを期待しております。最後に、本学会の盛況を祈念するとともに、運営に当たりご尽力いただきました宇城研悟学会長、別所裕二実行委員長をはじめ、三重県臨床検査技師会の皆様に心より感謝申し上げます。

令和 7 年 6 月吉日

令和 7 年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第 63 回）の開催にあたって



一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

中部圏支部長 南部 重一

令和 7 年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第 63 回）が一般社団法人三重県臨床検査技師会の担当において、三重県津市の三重県総合文化センターで開催されるにあたり一言ご挨拶申し上げます。

本学会は「最前線 ～ One step forward ～」をテーマに令和 7 年 11 月 1 日（土）、2 日（日）の 2 日間、中部 6 県の臨床検査技師が集い、臨床検査を取り巻く課題と今後進むべき未来を一緒に考える学会として開催されます。

我々は日々進歩する臨床検査技術に対応するため学び続けることが求められます。働き方改革に資するタスク・シフト/シェアの推進、また少子高齢化、物価高騰、災害・国際紛争など様々な社会情勢や課題に向き合いながら、日常業務に取り組んでおります。

日本の災害対策は、地震や水害などの災害に備え、個人の「自助」、地域社会の「共助」、そして国や自治体の「公助」の 3 つの視点から実施されています。とりわけ、災害医療体制では災害拠点病院の設置や DMAT(災害派遣医療チーム) が整備され、日臨技でも発災時に迅速な被災地支援を実現すべく、全国の会員施設へ災害対策の進捗を啓発するとともに、各都道府県技師会と行政との連携強化を推進しています。

今回の支部シンポジウムは、「災害に備える」と題し、「能登半島地震の経験から学び、南海トラフに生かす」を根幹に、能登半島地震の経験から支援する側、支援される側の立場からの学び、そしてサイバー攻撃対策も交えた学びの企画となっています。各県から選出された演者による災害に備える姿勢についての討論が期待できます。

日臨技会長基調講演として、横地常広代表理事会長より「今が旬・・・臨床検査「次のステージ」へ」、日臨技企画として小松京子専務理事より「「医学検査」の今後と論文の執筆について」が予定されています。また、特別講演、教育講演、部門別企画、一般演題、ランチョンセミナー、機器試薬展示と盛りだくさんの学会です。是非、本学会に多数の会員が集い、有意義な学会であることを心よりお祈りいたします。

最後に、学会を企画・準備にあたりご尽力いただいた宇城研悟学会長をはじめ三重県臨床検査技師会の学会実行委員ならびに実務委員の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、今学会が成功裏のうちに終了することを切に願っております。



住所：〒514-0061 三重県津市一身田（いっしんでん）上津部田（こうづべた）1234番地
TEL：059-233-1111（代表）
最寄駅：津（つ）駅（近鉄名古屋線、JR紀勢本線、伊勢鉄道）

東京方面から

東海道新幹線：東京駅から名古屋駅まで約 110 分
名古屋から近鉄線または JR 在来線に乗り換え
津駅西口下車まで特急利用で約 60 分

名古屋方面から

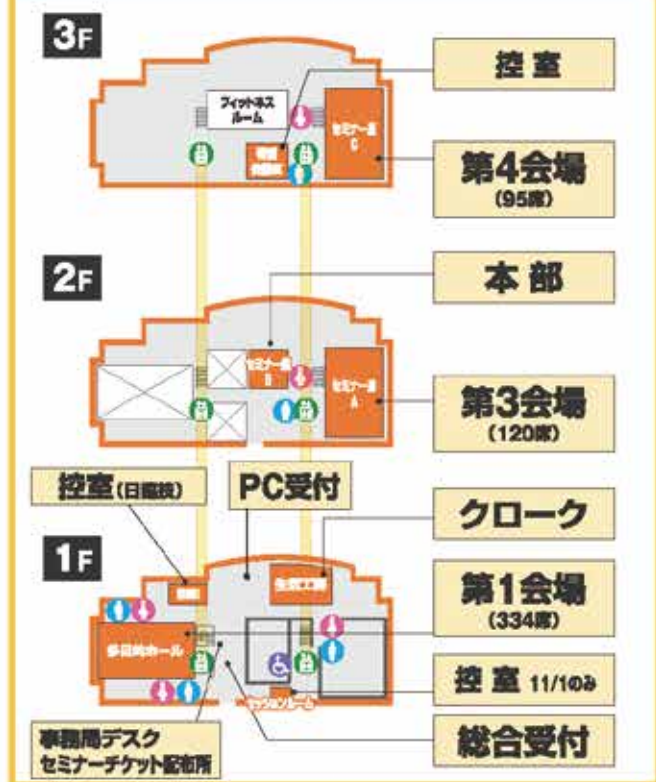
近鉄名古屋線・JR 在来線：津駅西口下車まで特急
利用で約 60 分

大阪方面から

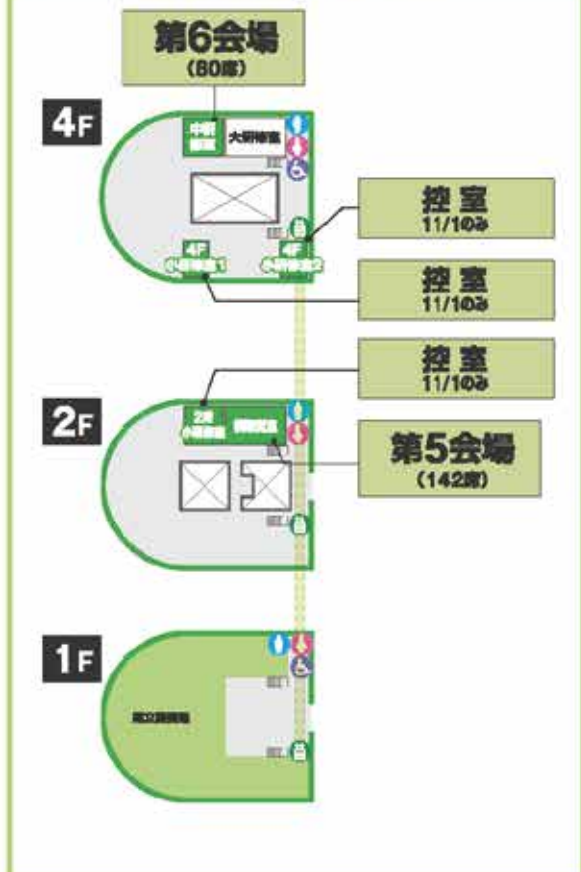
近鉄名古屋線：大阪難波駅から津駅西口下車まで
特急利用で約 110 分

無料シャトルバス運行につきましては、学会ホームページをご覧ください

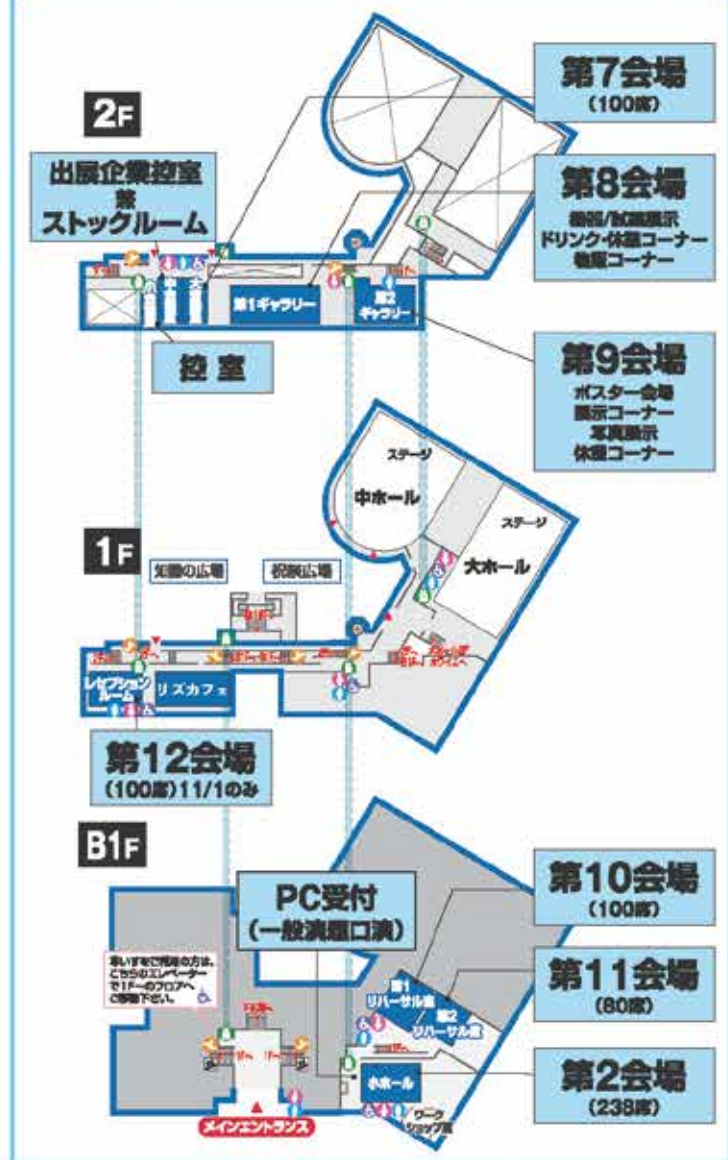
男女共同参画センター「フレンテみえ」



生涯学習センター



文化会館棟





抄録につきましては、ホームページよりダウンロードいただけますので、ご確認のほどよろしくお願い申し上げます。







日程表 11月1日(土)

フレンテみえ		文化会館	フレンテみえ		生涯学習センター	
第1会場 多目的ホール		第2会場 小ホール	第3会場 セミナー室A	第4会場 セミナー室C	第5会場 視聴覚室	第6会場 中研修室
8 00						
10						
20						
30						
40	08:30 ▶ 09:00					
50	開会式					
9 00						
10	09:00 ▶ 10:00	09:00 ▶ 11:50				
20	教育カンファレンスⅠ	一般演題発表				
30	検体検査のパニック値	演題1~17	09:30 ▶ 11:00	09:30 ▶ 11:00	09:30 ▶ 11:00	
40			部門企画	学生フォーラム1	部門企画	
50			臨床検査総合部門		臨床一般部門	
10 00	10:00 ▶ 11:00					10:00 ▶ 11:30
10	教育カンファレンスⅡ					部門企画
20	生理検査のパニック値					臨床微生物部門
30						
40						
50						
11 00	11:00 ▶ 11:40					
10	教育カンファレンスⅢ					
20	医療安全とパニック値					
30						
40						
50						
12 00	12:00 ▶ 13:00		12:00 ▶ 13:00		12:00 ▶ 13:00	12:00 ▶ 13:00
10	ランチョンセミナー1		ランチョンセミナー2	12:15 ▶ 13:00	ランチョンセミナー3	ランチョンセミナー4
20	ロシュ・ダイアグノスティクス		シスメックス株式会社	円卓のミニランチョン	積水メディカル株式会社	アボットジャパン合同会社
30	株式会社					
40						
50						
13 00	13:10 ▶ 14:00	13:10 ▶ 16:00	13:10 ▶ 14:40			
10	特別講演Ⅰ	一般演題発表	シンポジウム2			
20	畑地 治 医師	演題18~33	検査と健康展			
30			を考える			
40						
50						
14 00	14:00 ▶ 15:00					
10	特別講演Ⅱ					
20	久留宮 隆 医師					
30						
40						
50						
15 00			15:00 ▶ 15:30			
10			三重県企画4 スイーツ提供			
20			リードシステムスケア・			
30			ダイアグノスティクス株式会社			
40						
50						
16 00	15:45 ▶ 16:45					
10	会長基調講演					
20	横地 常広 会長					
30						
40						
50						
17 00	17:00 ▶ 17:30					
10	学会式典・表彰式					
20						
30						
40						
50						
18 00						
10						
20						
30						
40						
50						
19 00						
10						
20						
30						
40						
50						
20 00						



日程表 11月1日(土)

文化会館						
	第7会場 大会議室	第8会場 第1ギャラリー	第9会場 第2ギャラリー	第10会場 第1リハーサル室	第11会場 第2リハーサル室	第12会場 レセプションルーム リズカフェ
8 00						
10						
20						
30						
40						
50			08:45 ▶ 10:00			
9 00	09:00 ▶ 10:30	09:00 ▶ 17:00	ポスター貼り付け			
10	シンポジウム1 MTコラボ企画 生理検査の内部精度管理	企業展示 休憩 ドリンクコーナー 物販コーナー (物産展) 記念品交換所				
20			10:00 ▶ 15:00			10:00 ▶ 11:40
30			ポスター観覧			三重県企画1午前 CGI株式会社協賛 ジーンとくる! 世界基準のゲノム検査
40	10:40 ▶ 11:40					
50	教育カンファレンスIV 三重県総合博物館コラボ企画 入場券&グッズ配布					
11 00						
10						
20						
30						
40						
50						
12 00	12:00 ▶ 13:00					12:00 ▶ 13:00
10	ランチョンセミナー5 アストラゼネカ株式会社					ランチョンセミナー6 サーモフィッシュヤー サイエンティフィック株式会社
20						
30						
40						
50						
13 00						
10						
20						
30						
40						
50						
14 00				13:30 ▶ 15:30		13:15 ▶ 17:00
10				三重県企画2 生理検査内部精度管理 解説 & 体験		三重県企画1午後 ジーンとくる! 世界基準のゲノム検査
20						
30						
40						
50						
15 00			15:00 ▶ 17:00			14:55
10			ポスター発表 演題61~131			
20						
30						
40						
50						
16 00	16:00 ▶ 16:30					
10	三重県企画3 スイーツ提供 プレゼンの神様降臨					
20						
30						
40						
50			ポスター座長賞決定			
17 00						
10						
20						
30						
40						
50						
18 00						18:00 ▶ 19:30
10						情報交換会
20						
30						
40						
50						
19 00						
10						
20						
30						
40						
50						
20 00						



日程表 11月2日(日)

	フレンテみえ	文化会館	フレンテみえ	フレンテみえ	生涯学習センター	生涯学習センター
	第1会場 多目的ホール	第2会場 小ホール	第3会場 セミナー室A	第4会場 セミナー室C	第5会場 視聴覚室	第6会場 中研修室
8 00						
10						
20						
30						
40						
50						
9 00		09:00 ▶ 11:50		09:00 ▶ 10:30	09:00 ▶ 10:30	09:00 ▶ 10:30
10	09:15 ▶ 10:00		09:30 ▶ 11:00			
20	三重県企画5	一般演題発表		部門企画	シンポジウム3	部門企画
30	災害 伊勢久株式会社	演題34~36,	部門企画	生物化学分析部門	コミュニケーション最前線	病理細胞部門
40		44-57	染色体・遺伝子部門			
50	10:00 ▶ 11:40				10:30 ▶ 12:00	10:40 ▶ 12:00
10 00	支部シンポジウム				学生フォーラム2	シンポジウム4
10	災害に備える					集まれニューリーダー
20						
30						
40						
50						
11 00						
12 00	12:00 ▶ 13:00		12:00 ▶ 13:00		12:20 ▶ 13:00	12:20 ▶ 13:00
10	ランチョンセミナー7		ランチョンセミナー8		ミニランチョン1	ミニランチョン2
20	シーメンスヘルスケア・		東ソー株式会社		スキルアップ血液培養検査!	臨床検査技師の新たな一歩!
30	ダイアグノスティクス株式会社					
40						
50						
12 00						
10	13:15 ▶ 14:10	13:15 ▶ 14:55	13:15 ▶ 14:45		13:15 ▶ 14:45	
20	特別講演Ⅲ	一般演題発表	シンポジウム5		部門企画	
30	杉本 和史 医師	演題37~43,	U40		輸血細胞治療部門	
40		58-60				
50	14:15 ▶ 15:15					
13 00	日臨技企画					
14 00						
10						
20						
30						
40						
50						
14 00						
15 00	15:15-					
10	閉会式					
20						
30						
40						
50						
15 00						
16 00						
10						
20						
30						
40						
50						
16 00						
17 00						
10						
20						
30						
40						
50						
17 00						
18 00						
10						
20						
30						
40						
50						
18 00						
19 00						
10						
20						
30						
40						
50						
19 00						
20 00						



日程表 11月2日(日)

文化会館					
第7会場 大会議室		第8会場 第1ギャラリー		第9会場 第2ギャラリー	
第10会場 第1リハーサル室		第11会場 第2リハーサル室			
8 00					
10 20					
30					
40					
50					
9 00	09 : 00 ▶ 11 : 00	09 : 00 ▶ 14 : 00	08 : 45 ▶ 13 : 00	09 : 00 ▶ 10 : 45	
10 10	部門企画 臨床血液部門	企業展示 休憩 ドリンクコーナー 物販コーナー (物産展) 記念品交換所	ポスター観覧 ポスター賞選考 スタンプラリー 抽選会場	部門企画 臨床生理部門	10 : 00 ▶ 11 : 10 教育カンファレンスVI 日本神経生理検査研究会 中部支部 コラボ企画 講演
11 00			11 : 45 ポスター賞決定	11 : 00 ▶ 11 : 45 教育カンファレンスV- I 症例発表のススメ	
12 00	12 : 00 ▶ 13 : 00 ランチョンセミナー9 日本光電工業株式会社				
13 00					
14 00	13 : 15 ▶ 14 : 45 シンポジウム6 女性の働き方改革 男性の本音 スイーツセミナー		14 : 00 ▶ 15 : 00 ポスター撤去	13 : 15 ▶ 15 : 00 教育カンファレンスV-II 匠のエコ-LIVEデモ & ハンズオン	13 : 20 ▶ 14 : 40 教育カンファレンスVI 日本神経生理検査研究会 中部支部 コラボ企画 実習
15 00					
16 00					
17 00					
18 00					
19 00					
20 00					



学会に参加される方へ

※日臨技生涯教育点数を付与しますので、日臨技会員証を必ずご持参いただき総合受付にて参加登録を行ってください。

※会場内では必ず『参加証（ネームカード）』をネームホルダーに入れ、常に明示できる状態にしておいてください。

受付

参加受付は、男女共同参画センター「フレンテみえ」1 階 総合受付にて下記の時間に行います。

11 月 1 日（土） 8:00 ～ 17:00

11 月 2 日（日） 8:30 ～ 13:30

日臨技会員の方

事前参加登録の有無に関わらず全ての方は『総合受付』にて日臨技会員証を提示して参加登録をしてください。参加登録をしないと日臨技生涯教育制度の点数を付与できません。

※事前参加登録された方は、事前に送付する参加証（ネームカード）を持参してください。

非会員、賛助会員・関連団体の方

『総合受付』にて手続きを行い、参加証（ネームカード）をお受け取りください。

学生（養成校）の方

『総合受付』にて学生証を提示し、参加証（ネームカード）をお受け取りください。

※参加費は学生証提示の場合のみ無料です。必ずご持参ください。（社会人学生を除く）

区分	参加費	参加登録方法
日臨技会員	5,000 円	JAMTIS での事前登録
		当日（現金のみ）
※関連団体・企業	5,000 円	当日（現金のみ）
非会員	15,000 円	当日（現金のみ）
学生	無料	当日のみ（学生証を提示）

※日本衛生検査所協会、日本臨床検査薬協会、日本臨床検査学教育協議会、日本臨床検査医学会



クローク

男女共同参画センター「フレンテみえ」1 階 生活工房に設置します。

貴重品のお預かりはできません。

お預かりは当日限りとし、翌日までのお預かりは致しませんので、当日の閉鎖時間前までに必ずお引き取りください。

クローク設置日時（予定）

11 月 1 日（土） 8:00 ～ 18:00

（情報交換会にご参加の方は、情報交換会会場内の手荷物置き場をご利用ください）

11 月 2 日（日） 8:30 ～ 15:30

ランチョンセミナー参加の方へ

当日チケットは、事前参加登録で残数が発生したセミナーのみ総合受付で配布いたします。

※事前参加登録されていない方は、参加費のお支払いをお願いいたします。

情報交換会参加の方へ

情報交換会参加を希望される場合は、当日受付を行ってください。

当日、総合受付で参加費 4,000 円をお支払いのうえ参加券をお受け取りください。

日時：11 月 1 日（土） 18:00 ～ 19:30

場所：文化会館 リズカフェ

スマートフォン等

会場に入場する際にはスマートフォン等は必ずマナーモードにしてください。学会進行の妨げや、その他の参加者の迷惑にならないようご注意ください。

会場での撮影録音

学会会場内での撮影や録音は、学会公式のもの以外は認めません。



座長・司会者の皆さま

※ 支部学会表彰者選考のお願い

座長の皆様には、支部学会表彰規定により支部学会奨励賞受賞者の選考をお願いいたします。推薦方法につきましては別途ご案内させていただきます。

- 座長受付は、男女共同参画センター「フレンテみえ」1 階 総合受付にて行います。
- 担当時間 30 分前までに受付を済ませ、開始 5 分前までに次座長席でお待ちください。
- 一般演題においては、開始のアナウンスはございません。時間になりましたらセッションを始めてください。
- 一般演題の発表時間は 6 分、質疑応答 3 分です。担当時間内に終了するようご協力をお願いします。



発表データの作成・PC 受付について

スクリーンは 1 面で、PC（パソコン）による発表のみとなります。各 PC 受付は、セッション開始 30 分前には、必ずおすませください。

発表データの作成については下記の点に注意してください。

- ・会場で使用する PC の OS およびアプリケーションは次のとおりです。
使用環境：Windows11、PowerPoint for Microsoft 365
※Mac OS は使用できませんのでご注意ください。
- ・発表データのファイル名は【演題番号 氏名】例）【000 三重 一郎】としてください。
- ・発表データは 4 : 3、16 : 9 のどちらで作成していただいても結構です。
- ・会場で使用する画面の解像度は XGA（1,024×768）です。
これ以外のサイズで作成した場合、正確に表示できませんのでご注意ください。
- ・発表データに使用するフォントは、文字化けやレイアウトずれを防ぐため、特殊なフォントは使用せず Windows に標準搭載されているフォントのご使用をお勧めします。
- ・PowerPoint 上で動画を使用する場合は、標準の Windows Media Player（Ver.10 以降）で動作する形式にて作成し、PowerPoint に貼り付けてください（ハイパーリンクなどを使用しますとリンク切れの原因になるため避けてください）。
なお、動画ファイルは、符号化や特殊な圧縮（コーデック）をしたものは使用しないでください。また、動画の音声を会場で再生する必要がある場合は、PC 受付にてその旨を係員にお伝えください。
※動画データは、PowerPoint のデータと共に同一のフォルダ内に保存のうえご持参ください。
- ・スケジュールおよびスペースの関係上、PowerPoint の発表者ツール機能は使用できませんのでご注意ください。
- ・原則として、発表データは USB メモリによる持ち込みとさせていただきます。なお発表データは当日持参してください。事前に郵送されても受付はできませんのでご注意ください。
- ・USB メモリをお持ちいただく際、混乱の元となりますので、USB メモリ内には発表演題のファイルのみを保存してください。
- ・USB メモリは、各自にて必ずウイルスチェックを行ったうえでお持ち込みください。
- ・MO・FD・ZIP 等は受付できませんのでご注意ください。
- ・USB メモリはデータを取り込んだ後、すぐに返却いたします。
- ・バックアップとして、予備データをご持参いただくことをお勧めします。
- ・取り込んだデータについては、厳重に管理し、学会終了後に適切に破棄します。



PC 持ち込みに関して

特別な理由がある場合を除いて（動画再生に不安のある方等）は、PC 持ち込みでの発表は許可できませんのであらかじめご了承ください。やむを得ず PC を持ち込む際は、事前に学会事務局までご連絡ください。

1. 発表データの受付について

- 1) 発表開始の 60 分前（朝一番のセッションは 30 分前）までにデータの受付・試写をお済ませください。
- 2) 試写において、持参したデータおよびバックアップデータも動作せず修復できなかった場合は、スライドなしで発表していただきます。発表者の責任において仕様に合致したデータの作成をお願いします。

2. 発表について

発表は、ご自身で演台上のマウス・キーボードを操作して行ってください。その他演台には、モニターとレーザーポインターをご用意しております。

なお、スケジュールおよびスペースの関係上、発表者ツールの使用はできませんのでご注意ください。

発表時間は、1 演題につき発表 6 分、質疑 3 分、計 9 分以内です。

3. 利益相反（COI）の開示について

演題発表時、筆頭発表者における COI の開示が義務付けられております。COI の有無に関わらず、タイトルスライドの次に COI 開示のスライドを挿入してください。スライドのデザイン自体は自由です。



ポスター発表形式

ポスター作成要項

- ・ 掲示スペースは縦 180× 横 120cm です。範囲内に収まるよう自由に作成してください。
- ・ 演題番号と画鋏は事務局で用意します。
指定された演題番号のスペースに張り付けてください。
- ・ 演題名・所属・氏名は各自ご用意ください。
- ・ ポスター掲示の最後に COI を開示してください。

ポスター掲示時間

11 月 1 日（土）10：00～11 月 2 日（日）14：00

＜ポスターの貼り付け・撤去＞

貼り付け：11 月 1 日（土）8：45～10：00

撤 去 ：11 月 2 日（日）14：00～15：00

* 撤去されなかったポスターは事務局にて撤去・処分いたします。

ポスター発表

11 月 1 日（土）15：00～17：00 発表 6 分、質疑 3 分

各ブース一斉に順次発表をしていただきます。

発表時間に間に合うよう自身のポスターブースに集合してください。



ピックアップインフォメーション お得がいっぱい！

選べるランチョン 肉

三重県といえばやっぱり肉
焼き肉弁当



うなぎ

市民一人当たりのうなぎの消費量日本一
にもなった津市



幕ノ肉弁当

いろいろ食べたい
リスカフェの幕ノ肉弁当

令和7年11月1日(土) 13:30-15:30
第10会場

生理検査の内部精度管理体験

メディカルテクノロジー2月号
プレゼント(先着10名)



令和7年11月1日(土) 13:15-17:00
第1会場

特別講演 |

松阪市民病院オリジナルグッズ
(スポーツタオルなど)を配布



MieMU

三重県総合博物館 MieMu は、三重の自然・歴史・文化を総合的に学べる体験型博物館です。常設展示では伊勢湾の自然や熊野古道の歴史を紹介し、企画展では多彩なテーマを取り上げています。特に注目は、三重で発掘された象の化石展示で、太古のロマンを感じられます。大人から子どもまで楽しめる学びと発見の場です。

教育カンファレンスIV 三重県博物館関連

令和7年11月1日(土) 10:40-11:40
第7会場



チケットプレゼント
博物館入場券 &
関連グッズ





カフェスイーツセミナー

赤福 11月1日(土) 限定

朝日餅 11月1日(土) 15:00-15:30
第3会場

ELF スコアの臨床的有用性

11月1日(土) 16:00-16:30
第7会場

フレゼンの神降臨

毎月一日のみに販売される特別なお餅

「朝日餅 (ついたちもち)」

伊勢では古くから「朝日参り」と呼ばれ、毎月一日に
伊勢神宮へお参りして、無事を感謝し新しい月の平穏
を祈る風習があります。

令和7年11月2日(日) 13:15-14:45
第7会場

女性の働き方改革

リスカフェのスイーツタワー&コーヒー



鳥羽国際ホテル

チーズケーキ

令和7年11月1日(土) 14:55-15:25
第12会場

ジーンとくる! 世界基準のゲノム検査

濃厚でなめらかな口どけに、上品な甘さと爽やかな酸味が調和したチーズケーキです。



令和7年11月2日(日) 9:15-10:00
第1会場

「災害協定はなぜ必要なのか」

防災関連グッズ



大抽選会

和田金 牛しぐれ etc

11月2日(日) 第9会場
第2ギャラリー

スタンプラリー

企業展示 & 会長印

物産展

地元の百貨店が参戦 津松菱





特別講演Ⅰ

令和7年11月1日(土) 13:10-14:00 第1会場

座長 宇城 研悟 (松阪市民病院)

臨床検査技師の役割について思うこと

松阪市民病院 院長 兼 呼吸器センター長
畑地 治 先生

特別講演Ⅱ

令和7年11月1日(土) 14:00-15:00 第1会場

座長 別所 裕二 (菰野厚生病院)

現代社会における国際医療の役割 「国境なき医師団、私の歩んできた道」

国境なき医師団日本 (MSF) 元会長
済生会松阪総合病院 救急科
久留宮 隆 先生

特別講演Ⅲ

令和7年11月2日(日) 13:15-14:10 第1会場

座長 下飯屋 雄二 (三重大学医学部附属病院)

脂肪性肝疾患の基礎知識

三重大学医学部附属病院 検査部教授
杉本 和史 先生



会長基調講演

令和7年11月1日(土) 15:45-16:45 第1会場

座長 森本 誠 (四日市看護医療大学)

今が旬・・・臨床検査「次のステージ」へ

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
代表理事会長 横地 常広

日臨技企画

令和7年11月2日(日) 14:15-15:15 第1会場

座長 菊地 良介 (岐阜大学医学部附属病院)

「医学検査」の今後と論文の執筆について

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
専務理事 小松 京子

令和 7 年 11 月 1 日 (土) 13:10-14:00

第 1 会場

〈テーマ〉

臨床検査技師の役割について思うこと



松阪市民病院 院長 兼 呼吸器センター長
畑地 治 先生

どんな仕事でも言えることだが、仕事の原動力はモチベーションである。従来、病院における臨床検査技師の業務については、採血などの検体検査が多くをしめていたのではないだろうか。生化学や血算などの検体検査の場合、検体をセットすれば自動的に機械が検査を行い、正常値が決まっているため、解釈に特殊な技能は必要ではなかった。(もちろん精度管理は必要なことではあるが)

松阪市民病院においては、このような検査は全て隣にある医師会検査センターに委託して行っている。このことは、一長一短あるかと思われるが、病院に勤める検査技師の先生方の労力を、他の方面に向けることができるという点では非常に大きなものがある。

個別化医療の高まりにより、従来より検査室開発検査 (LDT:Laboratory Developed Tests) の重要性が急速に高まっている。松阪市民病院においては、次世代シーケンサーを導入し、癌患者に対して 150 のドライバー遺伝子を短期間で測定できる体制を整えた。LDT の品質担保には、現在、世界的には CAP (College of American Pathologists) 認定が最も多くなされている手段だと思われるが、取得は容易でない。特に Liquid biopsy (血液を用いた遺伝子解析) で CAP 認定を取得している施設は日本国内には存在しなかった。品質向上と、検査に携わる医療従事者のモチベーション向上のため、CAP 認定にトライし、取得することが可能であった。この一連の挑戦について、報告させていただく。

一方、臨床検査技師の業務は多岐にわたる。腹部エコーや心エコーなどの超音波検査においては、施術する側の技量により、疾患予防や生命予後が左右されることも少なくは無い。また、松阪市民病院で多く行われる呼吸機能検査についても、施行する側の技量により、結果や再現性が大きく変化する。品質が高い検査結果を提供し続けることがまさに求められ、それが各人の技量に大きく依存するわけである。

臨床検査技師に課せられる役割はますます大きくなっていくと思われる。しかしながら、その反面、ますますやりがいの大きい仕事になり、モチベーションもかき立てられるようになるのではないのかと思うわけである。



令和7年11月1日(土) 14:00-15:00

第1会場

〈テーマ〉

現代社会における国際医療の役割 「国境なき医師団、私の歩んできた道」



国境なき医師団日本（MSF）元会長

済生会松阪総合病院 救急科
久留宮 隆 先生

今回の講演では医療と人道援助についてお話をしたいと思います。世界には医療にアクセスできず、医療が必要にもかかわらずそれを受けられない人たちがいます。我々とは生まれた場所が違うだけで命を失う人たちがいます。また病気は国を選ばないし、人間と違って国境はありません。国境なき医師団の活動はそのような環境の中、様々なジレンマを抱えながら行われていますが、常に失敗や弱点を克服し、時代の変化に適応していかなければならず、ここには医療というものに対する根本的な問いかけが存在します。これは我々が単独でできる事ではなく、人々の後押しがあって初めて成り立つものです。普段から医療に携わる皆様方とこの様な状況について共有できることは、我々にとって貴重な機会であり、ここから全ての活動がスタートするものと考えています。

【略歴】

1984 年三重大学医学部卒業

2004 年国境なき医師団よりリベリア派遣、以後 20 年にわたり活動継続

2024 年 7 月より済生会松阪総合病院救急科

〈テーマ〉

脂肪性肝疾患の基礎知識

三重大学医学部附属病院 検査部教授
杉本 和史 先生

脂肪肝は大きく非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) とアルコール性脂肪肝に分類される。近年 NAFLD の名称は “代謝機能障害関連脂肪性肝疾患 (MASLD)” に変更され、従来の非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) も “代謝機能障害関連脂肪性肝炎 (MASH)” に変更された。MASLD の成因には内臓脂肪、インスリン抵抗性などがあり、そこに酸化ストレス、炎症性サイトカイン、腸内細菌由来のエンドトキシン、遺伝性素因などが複雑に絡み、MASH の病態が形成されていく。本邦でウイルス性肝疾患が減少していく一方で MASLD、アルコール関連肝疾患は増加しており、これに伴う肝不全、肝細胞癌も増加している。また、MASLD では心血管イベントも増加し、主たる死因となっている。

本講演では、MASLD およびアルコール性肝疾患の理解において、臨床検査技師に求められる基本的な知識や視点について、簡潔に解説する。

【略歴】	1992 年 6 月	三重大学医学部附属病院 第一内科 医員 (研修医)
	1993 年 1 月	三重県立総合塩浜病院 内科 医員 (臨床研修医)
	1994 年 10 月	三重県立総合医療センター 内科 専門診療医
	1995 年 4 月	三重大学大学院医学系研究科 博士課程
	2000 年 4 月	三重大学医学部附属病院 第一内科 医員
	2000 年 6 月	米国 ペンシルバニア大学医学部消化器科 Postdoctoral Researcher
	2002 年 12 月	三重大学医学部附属病院 第一内科 医員
	2005 年 2 月	三重県立総合医療センター 消化器科 医長
	2008 年 7 月	三重大学医学部附属病院 中央検査部 (現検査部) 助教
	2011 年 10 月	同 中央検査部 (現検査部) 講師
	2019 年 6 月	同 中央検査部 (現検査部) 准教授
	2024 年 8 月	同 検査部教授

令和 7 年 11 月 1 日 (土) 15:45-16:45

第 1 会場

〈テーマ〉

今が旬・・・臨床検査「次のステージ」へ

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
代表理事会長 横地 常広

我々を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。技術革新、デジタル技術の普及に伴い、新たな臨床検査技師の働き方が求められています。「医師の働き方改革」をトリガーとして進められている「タスク・シフト/シェア」の取組みも施行から 3 年が経過し、厚労省は今年度を評価年度と位置づけ、進捗調査並びに更なる啓発に向けた事業展開の検討が進められようとしています。看護協会が実施した調査結果では、医行為の一部限定解除によって進められている「特定看護業務」などの拡充により、一定の評価がされる中、保助看法に規定された「診療の補助行為」の一部限定解除により他の医療職種に業務拡大された行為などを含め、医師以外の医療関連職種にタスクシェアすることにより、看護師の本来業務の充実につながったとして、多職種カンファレンスの実施、多職種との協働（計画作成、介入、評価）、退院に向けた支援などの業務が挙げられ、タスクシェア先の職種として薬剤師、理学療法士、臨床検査技師などが報告されています。今回法改正され、臨床検査技師に認められた 10 行為、現行法で実施可能とされた 14 行為について、タスクシェアが進めば医療機関における臨床検査技師の評価は一層高まることが期待できると思います。

一方、人口推計により 2040 年に向けて後期高齢者は増加することから、検査室では従来業務を抱えた上で、新たな業務への取組みは厳しいと言わざるを得ません。日本病院団体協議会の調査では、医業経費の大幅な上昇により、医業利益率、経常利益率とも悪化傾向にあり全国の多くの医療機関の経営状況は著しく切迫していると報告されています。したがって、新たな業務を展開するにあたり安易な人員増は望めない状況にあります。医療全体が大きく変わろうとしている今こそが、最大のチャンスと捉え、我々の根幹である「検査データの品質保証」を担保した上で、限られた人財を最大限活用して業務の効率化を図り、生産性の向上に努め、臨床検査の「新たなニーズ」「新たな評価」につなげることが必要であると考えております。医療職種の働き方改革は、医師から看護師、看護師から臨床検査技師へタスクシェアされ、我々臨床検査技師のタスクシェア先は、スタッフの意識改革、業務の効率化、ICT を活用したシステム化、技術革新、生成 AI などを活用したデジタル技術だと考えています。施設の実情に合わせて、10 年後の検査室のあり方に向かって、一步踏み出していきたいと思います。

令和 7 年 11 月 2 日 (日) 14:15-15:15

第 1 会場

〈テーマ〉

「医学検査」の今後と論文の執筆について



一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
専務理事 小松 京子

日本臨床衛生検査技師会（日臨技）の会誌は、1957 年（昭和 27 年）に「衛生検査」として第 1 巻第 1 号が発行され、以来 70 年の歴史がある。第 40 巻第 1 号からは雑誌名を「衛生検査」から「医学検査」へと変更し、現在、この「医学検査」には毎年 100 前後の論文が投稿されている。この度、「医学検査」は時代に沿った形で会員の皆様へ学術情報を提供すべく、2026 年 1 月から電子書籍化を開始することとなった。なお「医学検査」に掲載された論文を J-stage へ掲載申請したのは平成 26 年 2 月であり、第 63 巻から掲載している。現在 J-STAGE では、国内の 2,400 を超える発行機関が、4,000 誌以上のジャーナルや会議録等の刊行物を公開している。J-STAGE は、多様な検索を可能として利用価値は高いが雑誌の形態ではない。一方、日臨技ホームページに掲載する「医学検査」は、電子書籍という形で今まで印刷された雑誌としての形態を維持することにより、閲覧は容易になると考える。また、日臨技ホームページを通して「医学検査」を閲覧できることは、学術面での広報の一旦を担うことができる。電子書籍化は、日臨技にとって印刷や郵送費などの費用面でもメリットは大きく、会員の皆様にとっては書籍の保存スペースが不要となることや論文の検索が J-stage と併せ容易になるなどのメリットが大きいと考える。

会員の皆様が発刊情報を携帯で手軽に確認できるようなアプリを開発中であるが、どの程度の閲覧が見込めるかは未知数であり、会員の皆様へのタイムリーな情報提供や意見収集が必須であると考えている。既に、冊子を手にするほうが読みやすいなどの問題点は挙げられており、携帯等により簡単に閲覧できるような工夫が必要であると考えている。なお、日臨技では「医学検査」のなかで特に優秀と考えられる論文に対して、最優秀論文賞・優秀論文賞として表彰する制度を設けている。毎年開催する医学検査学会の式典の中で表彰されるので、ぜひ多くの会員の皆様から投稿頂きたい。論文を書くことによって学術誌に掲載されると、自身の研究・検討が初めて世界へ発信されたこととなる。一般的に、査読のある学術雑誌に掲載された論文は、学会での発表よりも業績としての価値は高く、論文として優れたものは、参考文献として使用される可能性もある。また、論文を作成される会員の皆様が参考文献として「医学検査」に掲載された論文を引用して頂くことにより、個人だけでなく「医学検査」の学術誌としての価値が高くなっていくことも併せてご理解いただければ幸いである。

論文の種類は、原著論文（ターゲットとなる項目（検査名や疾患名）のデータ収集と解析）、技術論文（新しい機器や試薬などの検討や手法の変更などに伴う新旧データの比較等）、症例（稀症例の報告など）、資料（アンケートの解析など）など多岐にわたり、若い方々への論文投稿への啓発のために、日臨技では初心者のための論文作成に関する基本的な事項を WEB にて発信することを企画している。

出版委員会の事業に今後ともご理解とご協力をお願いする次第である。



令和 7 年 11 月 2 日 (日) 10:00-11:40

第 1 会場

<テーマ>

災害に備える

<ねらい>

日本の災害医療体制は阪神淡路大震災での教訓を糧に構築され、災害拠点病院の設置や DMAT(災害派遣医療チーム) が整備された。その後も、東日本大震災、熊本地震、そして昨年の能登半島地震と経験し、今も復興と再生が続いている。近年では災害に対し行政だけでなく、国民や企業・各種団体が積極的に被災地を支援する機運が高まり、発災時の自助・共助・公助に関する国民意識は明らかに向上している。

日臨技も発災時に迅速な被災地支援を実現すべく、全国の会員施設へ災害対策の進捗を啓発するとともに、各都道府県技師会と行政との連携強化を推進している。

臨床検査は、医療機関において患者状態の管理に必須であり、発災時でも重要性は変わらない。臨床検査機能をどこまで持続するのか、人的支援や避難所など医療機関以外での活動、会員支援として被災住宅などのへの支援など、災害に備えて取り組むべき事項は多い。また、さまざまな組織がターゲットとなるサイバー攻撃は増加傾向にあり、医療機が被害にあうケースも報告されている。患者の命を扱う医療機関にとってサイバー攻撃対策は、災害に備えると言っても過言ではない。

今回の支部シンポジウムでは、「能登半島地震の経験から学び、南海トラフに生かす」を根幹に、サイバー攻撃対策も交えた学びのあるシンポジウムにしたいと考えております。候補のテーマによっては、施設というよりは県技師会としての視点でお話していただきたいものも含まれています。

司会 南部 重一 (富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院)

直田 健太郎 (聖隷浜松病院)

<講演内容>

1. 能登半島地震の経験から学び、南海トラフに生かす

演者：滝野 豊 (北陸大学 医療保健学部)

2. 臨床検査技師 DMAT 隊員から学ぶ「我々に出来ること」

演者：鈴木 雅大 (刈谷豊田総合病院 臨床検査・病理技術科)

3. 実災害から学ぶ、支援する側の心得

演者：横田 綾 (国立大学法人富山大学附属病院 検査・輸血細胞治療部)

4. 「被災しました支援してください」と言われたときに

演者：久留島 幸路 (磐田市立総合病院 臨床検査技術科)

5. サイバー攻撃に備えた IT-BCP の構築 - 中部圏支部 6 県からみえる現状と課題 -

演者：石田 秀和 (岐阜大学医学部附属病院 検査部)

6. BCP のブラッシュアップ ～ 継続した検査提供を目指して ～

演者：佐藤 翼 (三重県立総合医療センター 中央検査部)



<テーマ>

日臨技施設認証対策！生理検査の内部精度管理

新しいスタンダードへ向けて

月刊『Medical Technology』2025 年 2 月号特集 コラボ企画

<ねらい>

生理検査の外部精度管理はフォトサーベイが主体であり、内部精度管理はできている施設とそうでない施設の差が大きいのが現状です。要因として①法令（医療法など）の管理外である、②術者の技術差が生じやすい、③生体を直接対象とするため生物（生理）学的個体差を考慮する必要がある、④設備・環境により行える範囲に差異がある、⑤検体検査に比べ内部精度管理に対する必要性の理解が乏しい、といったことが挙げられます。

内部精度管理を適切に実施して精度の高い検査データを出すためには、自施設に合ったルール設定と、その継続が重要です。内部精度管理を行う標準物質や機器（保守管理用機器）が整っていることが理想ではあるが、そうでない場合でも、代替となる手段や工夫によって対処できることがあります。

今回、登壇する何人かは、日臨技の品質保証施設認証制度で生理検査を担当している審査員です。審査をしている中で、間違った解釈で内部精度管理を実践している施設を目の当たりにして、「何とかしなければいけない！」と強く感じています。多くの施設で日臨技の品質保証施設認証制度を活用していただき、生理検査における品質と精度の底上げを図るのが我々の使命と感じております。本企画では、生理検査の精度管理に悩んでいる施設のターニングポイントになる実践的な内容をお届けできればと思います。

司会 滝野 寿（NPO 法人つくば臨床検査教育・研究センター）

<講演内容>

1. 心電計と脳波計の内部精度管理

演者：植松 明和（大東文化大学 スポーツ・健康科学部 健康科学科准教授）

2. 「ファントムが無いから出来ない」は言い訳！超音波の内部精度管理の裏技

演者：中島 英樹（筑波大学附属病院 検査部）

3. 呼吸機能検査の精度管理 ―「機器」と「技師」の両輪で築く品質保証―

演者：中出 祐介（金沢大学附属病院 検査部）

4. 標準物質が無い検査の内部精度管理について ―耳鼻科領域検査を中心に―

演者：西村 とき子（日本適合性認定協会 LAB 認定ユニット BB・生理検査マネジャー）



令和 7 年 11 月 1 日 (土) 13:10-14:40

第 3 会場

<テーマ>

「私たちの検査と健康展」現状の課題と未来の展望

<ねらい>

全国「検査と健康展」は、広く国民に臨床検査の正しい知識の普及、啓発に向けた取り組みを目的として実施されている日臨技の事業で、毎年多くの都道府県で開催されている。企画・運営は各都道府県技師会に委ねられており、各県で趣向を凝らした催し物を行っている。

特に多くの技師会で実施している無料検査は好評で、国民の健康づくりや生活習慣病の早期発見への意識の高揚を図るとともにイベントの集客にも繋がっている。しかし昨年、日臨技より検査と健康展の在り方について、「健康フェアのような企画ではなく、臨床検査技師の未来に繋がる内容、小中高生などの若い世代を中心とした国民の皆様に臨床検査技師のことを知っていただく企画を盛り込んだ開催内容を検討していく」との提言があった。

このシンポジウムでは、各県技師会が取り組んできた企画の内容や運営状況などをお聞きし、現状の課題や問題点を議論していく。また、日臨技が求める「検査と健康展」の在り方について、望まれているもの、期待されているもの、目指すべきものについて意見交換を行い、新しい検査と健康展の姿を模索しつつ、1つの形を作りたい。

司会 林 豊（済生会松阪総合病院 臨床検査課）

<講演内容>

1. 私たちの検査と健康展～石川県の変遷～

演者：河村 佳江（金沢医科大学病院 中央臨床検査部）

2. 検査と健康展 inTOYAMA を担当して

演者：辻田 由加利（厚生連滑川病院 臨床検査部）

3. 私たちにできること

演者：原 宜紀（JA 静岡厚生連 清水厚生病院 臨床検査科）

4. 『検査と健康展』in 愛知 ～見て、聞いて、触って、臨床検査を身近な存在に～

演者：和出 弘章（トヨタ記念病院 臨床検査科）

5. 岐阜県での検査と健康展の現状と今後の展望

演者：澤野 晴夫（一般財団法人 総合保健センター 品質管理部）

6. 悩める検査と健康展 ～まずは一歩前へ～

演者：林 豊（済生会松阪総合病院 臨床検査課）



令和 7 年 11 月 2 日 (日) 09:00-10:30

第 5 会場

<テーマ>

臨床検査技師はコミュニケーションが苦手？

医療従事者として多職種連携に必要なコミュニケーションスキルとは！

<ねらい>

本企画は、コミュニケーション（ノンテクニカルスキル）の重要性を学ぶことを目的としています。「コミュニケーション力が高い」と聞くと、ただ陽気で社交的といった印象を受けるかもしれませんが、医療現場ではそうではありません。「しっかり相手に情報を伝える」「相手の情報をしっかり受け取る（理解する）」ことがコミュニケーションの基本です。

これは、医療従事者として働く上で必要な「多職種連携」や「医療安全対策」といった視点でも非常に重要なことと考えられています。医療の専門職（臨床検査技師）としてのスキルとは別のスキル（ノンテクニカルスキル）ですが、コミュニケーション力を身に着けることで、仕事がやりやすくなったり、仕事に対するモチベーションが上がったり、大きな医療事故を防ぐことができたりといった効果があります。

今回は、医療従事者の教育に携わってきたスペシャルな講師陣と司会陣にご依頼をしました。「コミュニケーションスキルの重要性」を今後の医療を背負う若い世代へ知ってもらいたい。学生や教員、臨地実習先の指導者となる多くの方々に聞いてほしい。そんな思いで企画しましたので、是非ともご参加ください。

司会 安井 浩樹（田中医院 副院長）

刑部 恵介（藤田医科大学 保健学研究科准教授）

<講演内容>

1. 臨床検査技師に求められる対患者・対多職種コミュニケーション

演者：藤崎 和彦（岐阜大学 医学部名誉教授）

2. 模擬患者参加型教育におけるコミュニケーション能力育成の意義

— 医療専門職教育の視点から —

演者：阿部 恵子（金城学院大学 看護学部看護学科教授）

3. 苦手!? とは言わせないぜ！コミュニケーションスキルでダンジョン攻略！

演者：植松 明和（大東文化大学 スポーツ・健康科学部 健康科学科准教授）

4. 海の向こうへ Let' s Go ! 医療人としての大冒険！

演者：浦 みどり（神戸常磐大学 保健科学部医療検査学科准教授）



令和 7 年 11 月 2 日 (日) 10:40-12:00

第 6 会場

<テーマ>

地域ニューリーダーが未来を考える

<ねらい>

日臨技地域ニューリーダー育成研修会は、平成 26 年度に始まった組織活性化および組織強化事業の一環として、これまで 9 回開催されてきました。この研修会は、地域における新たなリーダーの育成を目的としており、参加者に対してリーダーシップスキルや組織運営に関する知識を深める機会を提供してきました。第 1 期 (7 回) の成果を経て、第 2 期がスタートし、これまで累計約 500 名が参加しました。しかし、昨年度をもってこの形式での開催は終了し、本年度は一旦休会となっています。次年度以降については、新たな開催形式が検討される予定です。

本セッションでは、これまでに参加した地域ニューリーダーたちから貴重な体験談をお聞きし、これらの経験を基に今後の展望や地域における取り組みの方向性について議論を深めます。特に、中部圏における地域ニューリーダーの育成をどのように進めていくかについて、各演者から具体的な提案を行っていただきます。また、各県技師会が行っている取り組みの事例を共有し、成功事例や課題をどのように克服してきたのか、また今後どのように改善していくべきかについて、参加者同士が積極的に意見交換を行い、地域ニューリーダー研修会の新たな形を模索する場として、非常に重要な役割を果たします。

司会 林 豊 (済生会松阪総合病院 臨床検査課)

<講演内容>

1. 若手の育成と挑戦、若手と組織がともに成長するしくみ
演者：玉野 裕子 (国立大学法人 金沢大学附属病院 病理部)
2. ニューリーダーとしての歩み
演者：中川 夏輝 (富山大学附属病院 検査・輸血細胞治療部)
3. 大型機器更新から学んだノンテクニカルスキルの重要性と失敗談
演者：竹林 史織 (浜松医科大学医学部附属病院 検査部)
4. 未来を切り拓くための育成と挑戦
演者：榎本 めぐみ (愛知医科大学病院 中央臨床検査部)
5. 学術部門の人材確保における現状と課題
演者：棚橋 正智 (JA 岐阜厚生連 岐阜・西美濃医療センター 西美濃厚生病院 検査科)
6. 現システム最後の地域ニューリーダー育成研修会に参加して
演者：柿本 将秀 (三重ハートセンター 臨床検査科)



<テーマ>

考えようこれからの臨床検査技師 ～どう生きるか～

<ねらい>

医療の現場は日々進化しており、技術革新や制度改革が求められる中、私たち若手臨床検査技師もその変化に直面しています。労働環境の改善、専門性の向上、チーム医療のあり方など、現場で感じる課題は多岐にわたります。本シンポジウムでは、40 歳以下の若手臨床検査技師が集まり、「考えようこれからの臨床検査技師 ～どう生きるか～」をテーマに、現場のリアルな声を共有し、未来への展望を語り合います。

今回は、石川県、富山県、愛知県、静岡県、岐阜県、三重県の 6 県から演者を招き、それぞれの地域での取り組みや現状を紹介します。そして、単なる問題提起にとどまらず、「私たち自身が臨床検査技師の未来をどう創っていくのか？」という視点で議論を深めます。

若手だからこそ言えること、若手にしか見えない課題を自由に発言できる貴重な機会です。普段上司の前では言いにくいことなどを気兼ねなく発言できる環境を提供します。各テーマごとに、演者の方々が 1 スライドで現状や未来への提言を述べ、それを基にディスカッションを深めます。会場からのご意見も積極的に伺い、より充実した議論の場にしていきます。

司会 柿本 将秀 (三重ハートセンター 臨床検査科)

<講演内容>

1. 私が考える検査技師の未来像

演者：白石 優作 (国民健康保険 小松市民病院 医療技術部中央検査科)

2. 臨床検査技師の現状とこれから

演者：吉田 淳史 (富山県健康増進センター 健診部)

3. 未来を築くためのタスク・シフト / シェアの実践

演者：村越 大輝 (地方独立行政法人静岡県立病院機構 静岡県立総合病院 検査部)

4. AI 共創時代を生きる：変革と進化のキャリアパスをどのように思い描くか

演者：市川 潤 (JA 愛知県厚生連江南厚生病院 診療協同部 臨床検査室)

5. チーム医療における臨床検査技師の役割と次世代への展望

－教育現場から見える課題と可能性－

演者：松岡 涼太 (岐阜医療科学大学 保健科学部 臨床検査学科)

6. 私なりの小さな働き方改革

演者：市川 真嗣 (伊勢赤十字病院 臨床検査課)



<テーマ>

女性の働き方改革・男性の本音 (スイーツセミナー！)

<ねらい>

女性は社会に出て働き始めると、仕事と家庭は両立できるのか、子どもができたなら仕事はどうすればよいのかといった悩みを持つ人が多くなります。ダイバーシティや女性活躍が叫ばれるなど社会情勢は変化してきており、それに伴って女性の労働環境も変わりつつありますが、依然として課題も多いです。結婚・出産というライフイベントは男性よりも女性の人生に大きな影響を与えます。特に日本では、働く女性が増えたにもかかわらず「家事・育児は女性がするもの」という旧来の価値観がまだまだ根強いという矛盾した状況にあります。女性が家事や育児に取られる時間は多く、そのため結婚・出産を機に今まで通りの仕事ができなくなったり、あるいはポジションを変えられるといった不安もあり、大きなストレスを抱えることとなっています。また出産に伴い産休・育休で現場の人員が減り大変な思いをしている施設は少なくないでしょう。そういった人員確保や取り組みも気になるところです。そのような女性の中で働く男性の本音も聞いてみたいところです！！そのような経験をしながら働き続けられている方を講師に迎え、自身の経験談など本音を交えご講演していただき、参加者同士（もちろん男性のかたも大歓迎～）スイーツを食べながら気軽にディスカッションしましょう！！

司会 広瀬 逸子（鈴鹿回生病院 臨床検査課）



<講演内容>

1. 制度や支援を活かすのは人～支え合いで広がる働き方の選択肢～
演者：石隈 麻邪（佐賀大学医学部附属病院 検査部）
2. 『育休・産休』現場 最前線 ～女性技師の働きやすさは職場環境にある！？～
演者：塩崎 真弓（富山大学附属病院 検査・輸血細胞治療部）
3. 型にとらわれない働き方改革
演者：藤田 京子（小牧市民病院 診療技術局 臨床検査科）
4. ワークライフバランスを考える
演者：小森 法子（独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター 臨床検査科）
5. 俺たちの働き方に対する認識は 10 年遅れているのか？
演者：宇城 研悟（松阪市民病院 医療技術部）



令和7年11月1日(土) 09:00-10:00

第1会場

<テーマ>

検体検査クリティカルバリュー(パニック値)運用の現状と課題

<ねらい>

クリティカルバリューは、「生命が危ぶまれるほど危険な状態にあることを示唆する異常値」¹⁾と定義され、パニック値とも呼ばれている。

臨床検査室がクリティカルバリューに遭遇した場合、病院機能評価や国際規格 ISO 15189 などの第三者機関による評価項目にも挙げられているように、依頼医との迅速な連携が必要になる。さらには、日本医療機能評価機構の医療事故に関する報告に見るように、医療安全の面からも、その連携体制の構築は極めて重要である。こうしたなか、日本臨床検査医学会のチーム医療委員会では2021年12月に臨床検査「パニック値」運用に関する提言書を発信し、2024年6月にこれを改訂した²⁾。クリティカルバリュー対応は良質な医療を実践する上で重要な要素になっているが、その運用に関しては、各医療提供施設に委ねられてきた経緯がある。今回、改めて各施設の現状を踏まえ、現実的な対応や課題等について考察したい。

1) Lundberg GD. When to panic over abnormal values. Med Lab Obs. 1972(4): 47-54.

2) 一般社団法人 日本臨床検査医学会. 臨床検査「パニック値」運用に関する提言書(2024年改定版)

<https://www.jslm.org/committees/team_med/20240610-1.pdf> (参照 2025-5-19).

司会 大川 一正(松阪中央総合病院 中央検査科)

<講演内容>

1. アンケート調査が明らかにするクリティカルバリューの運用実態

演者: 楠木 啓史(市立四日市病院 中央検査室)

2. クリティカルバリュー運用の課題解決に向けて

演者: 丸山 篤芳(松阪地区医師会 検診・医療部門)



令和 7 年 11 月 1 日 (土) 10:00-11:00

第 1 会場

<テーマ>

生理検査のパニック値を考える

<ねらい>

生理検査において、患者の生命が危険にさらされている可能性を示す緊急性の高い異常所見に遭遇する場面は多く、速やかに臨床側へ報告し、直ちに対応・治療を開始する必要があるパニック値について知っておく必要があります。生理検査のパニック値の具体的な基準値は検査の種類によって異なり、また医療機関ごとに運用指針を定めておく必要があります。

たとえば、生命の危険を示す心電図波形はパニック値にあたります。また、超音波検査などの画像検査でも、緊急対応を要する画像所見はパニック値ととらえて、直ちに治療や処置が必要となる場合があります。

検体検査に比べ生理検査のパニック値に対する具体的な基準や報告、対応の手順は、医療機関ごとに異なり、経験的に運用されている場合が多い。

今後、ある一定の統一された基準が必要とされる中で、今回生理検査のパニック値を多角的に学んでいただき、自施設での基準作りの一助としていただきたい。

司会 福本 義輝（済生会松阪総合病院）

<講演内容>

1. やってる？そろそろやらないとね！生理検査のパニック値報告

演者：田中 夏奈（小牧市民病院 臨床検査課）

2. 超音波検査のパニック所見：実臨床での役割と意義

～技師の立場で知っておきたいパニック所見の対応～

演者：山本 幸治（三重県臨床検査技師会参与）



令和 7 年 11 月 1 日 (土) 11:00-11:40

第 1 会場

<テーマ>

日臨技医療安全委員が伝える！パニック値に対する医療安全対策

<ねらい>

「生命が危ぶまれるほど危険な状態にあることを示唆する異常値」であるパニック値に対する患者安全のための取り組みは、我々臨床検査技師の責務です。

日臨技の関連団体である一般社団法人日本医療事故調査機構（医療事故調査・支援センター）より、2024 年 12 月に医療事故の再発防止に向けた提言第 20 号として、「血液検査パニック値に係る死亡事例の分析」が公表され、血液検査のパニック値にかかわる死亡事例（12 事例）の分析と、血液検査パニック値に関する 5 つの提言が示されました。

提言 1 「パニック値の項目と閾値の設定」、提言 2 「パニック値の報告」、提言 3 「パニック値への対応」、提言 4 「パニック値の表示」、提言 5 「パニック値に関する院内の体制整備」これらは、患者安全のために医療機関（臨床検査技師）が取り組む必要がある内容です。

本企画は、日臨技の医療安全委員が医療安全対策の視点からパニック値に対する臨床検査技師の責務を述べ、皆様と一緒に医療安全を考える時間としたい。

司会 田中 夏奈（小牧市民病院 臨床検査課）

<講演内容>

1. パニック値報告を「患者に届ける」ための体制構築

演者：根本 誠一（ひたちなか総合病院 TQM 統括室 安全管理センタ）

2. 輸血にパニック値は無い！でも、こんな時どうする？

演者：山本 喜則（帝京大学ちば総合医療センター 検査部 輸血検査部門）



令和7年11月1日(土) 10:40-11:40

第7会場

学会期間中に抜け出してお伊勢参りする人は必見！

<テーマ>

「歩く旅と健康観 江戸時代のお伊勢参りから」

講師 三重県総合博物館 学芸員 太田 光俊 先生

<ねらい>

現代そして江戸時代のお伊勢参りについて考えてみませんか？ これまでお伊勢参りをしたことがある方、これからお伊勢参りに向かう方、昔のお伊勢参りを知ること、これまでと違ったお伊勢参りが見えてくるかもしれません。

○お話の前提

- ・江戸時代の健康や徒歩に関するイメージを、三重県で江戸時代の伊勢参りの研究をしているものとしてどう考えるか
- ・伊勢参りは歩く旅だったという当たり前のことからわかること
- ・伊勢参りの旅と生・老・病・死

○江戸時代の歩く旅の実態

- ・歩きの実態、旅のスピード、道中の養生
- ・歩くことで盛り上がる伊勢参りの道中
- ・ドア・ツー・ドアの旅とは異なる楽しみ方、盛り上がり方
- ・肉体を使う旅、長期間の旅であるからその中で生・老・病・死を考える

○生・老

- ・一生の中での伊勢参りの位置づけ
- ・無断で伊勢参りしたという抜け参りとは
- ・母子で抜け参りをする事（産後・育児の中で伊勢参り）
- ・子どもの抜け参り（家出？）

○病・死

- ・道中で病になる可能性、死ぬ可能性（金欠、野垂死、それらに対する施行の実態）
- ・病気が治る伊勢参り！？（腰・目？）

司会 中村 和人（市立伊勢総合病院）

隣接する三重県総合博物館のチケット & グッズをプレゼント！

（先着100名限定）



令和7年11月2日(日) 11:00-11:45

第10会場

<テーマ>

One Case, One Insight – 症例報告が導く観察と思考の深化 –

<ねらい>

日々の臨床で向き合う一例一例には、学びの芽が潜んでいる。しかし、日常業務の多忙さや経験不足、発表への不安から、若手技師を中心にその芽が見過ごされがちである。症例報告は珍しさを競う場ではなく、日常の症例を丁寧に観察し、考察を深め、他者と共有する営みこそが学びの本質を形づくる。

本講演では、症例報告の進め方やプレゼン技法を実例とともに解説する。症例選定の視点、構成の工夫、視覚的提示、そして考察における独自の解釈と言語化の重要性を示し、臨床検査技師が「情報の受け手」から「意味を創造し共有する存在」へと成長する過程を描く。症例報告に迷う若手技師に、観察と思考を深化させる第一歩を踏み出す契機となることを目指す。

司会 山本 幸治（三重県臨床検査技師会参与）

<講演内容>

「One Case, One Insight – 症例報告が導く観察と思考の深化 –」

演者：松林 正人（三重ハートセンター 臨床検査科）

令和7年11月2日(日) 13:15-15:00

第10会場

<テーマ>

エコー描出力アップ講座 – 日常の曖昧を確信に変える –

<ねらい>

本企画は、日常検査において誰もが経験する「描出があいまいで確信が持てない」という状況を克服し、安定した画像取得を可能とする描出力の向上を目的とする。全体は90分で構成され、前半30分では心エコー・血管エコー・腹部エコーそれぞれの領域における描出の要点や注意点を整理し、臨床現場で直面する課題へのアプローチを講義形式で解説する。続く後半60分では、参加者を小グループに分け、ライブデモとハンズオンを組み合わせた実践的なセッションを行う。ライブデモでは講師による実際の描出操作を間近で観察し、そのポイントや工夫を具体的に学ぶことができる。さらにハンズオンでは、参加者自身がプローブを操作し、その場で講師から直接指導を受けることで、講義で得た知識を即座に技術として体得することが可能となる。講義と実技を融合させることで「理解」と「実践」を一体化させ、明日からの検査業務に直結する描出力の向上を目指す企画である。臨床における曖昧さを確信に変え、検査の質をさらに高める契機となることを期待する。

司会 松林 正人（三重ハートセンター 臨床検査科）

<講演内容>

1. 心エコー

「心尖部 view 描出のキホン～曖昧を確信へ～」

演者：宮田 真希（三重大学医学部附属病院 超音波センター）

2. 血管エコー

「ちゃんと見てる？全下肢エコーで盲点となる部位の観察方法か」

演者：笹木 優賢（藤田医科大学病院 臨床検査部）

3. 腹部エコー

「描出力アップ！脾臓の端から端まで」

演者：小島 祐毅（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 検査部）

令和7年11月2日(日) 10:00-11:10、13:20-14:40

第11会場

<テーマ>

脳波の電極装着～検査の腕の見せどころ～

<ねらい>

脳波計の使い方と電極装着について基礎を中心に講演いただきます。また、実習では実際に電極を装着し、実機を用いてデジタル脳波形の上手な操作方法を学んでいただきます。講義と実習で得たことを自施設に持ち帰り、実践いただけることを望みます。

司会 杉山 聡（富士脳障害研究所附属病院 検査科）

<講演内容>

【講演の部】

10:00～10:30「デジタル脳波計の使い方」

演者：佐古 和彦（日本光電工業株式会社）

10:30～11:10「電極装着に活かす“知識”と“工夫”」

演者：久富 一毅（三重大学医学部附属病院 検査部）

【実習の部】

13:20～13:30 全体実習

「デジタル脳波計の使い方」（10分）

13:40～14:40 グループ実習

①「接触抵抗の落とし方」（30分）

②「仰臥位や体動者の電極装着」（30分）

※グループ実習①②は前後半のローテーションで実習します

実習講師：経験豊富な講師が各グループを指導します

<募集要綱>

- ・講演の部（定員 70 名）
- ・実習の部（定員 24 名）

参加される方は、詳細を日本神経生理検査研究会 HP にてご確認ください。



日本神経生理検査研究会 HP

共催：日本神経生理検査研究会
後援：日本光電工業株式会社



令和 7 年 11 月 1 日 (土) 09:30-11:00

第 3 会場

<テーマ>

動き出した新カリキュラム ～臨地実習をより充実するためには～

<ねらい>

臨床検査技師の卒前教育として臨床検査学教育の内容が令和 4 (2022) 年入学者から改正された。新カリキュラムでは臨地実習が 5 単位増加し 12 単位となり、そのうち 3 単位以上は生理学的検査を行うこと、臨地実習前に行う技能修得到達度評価 の 1 単位が必須となった。また、臨地実習期間中に学生が実施する行為、見学する行為及びそれに対する評価基準書も定められた。その点を含めて改正された方向でスタートした臨地実習に関して、受け入れ先の各施設における問題点、改良点など今後の実習を充実させるために議論したいと考えております。

司会 棚橋 伸行 (鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部臨床検査学科)

松村 隆弘 (北陸大学 医療保健学部医療技術学科)

<講演内容>

1. 当院における臨地実習の現状

演者：安田 純香 (春日井市民病院 臨床検査技術室)

2. クリニックでの取り組み

演者：大橋 悟 (坂の上ファミリークリニック 医療技術課)

3. 当院における新カリキュラム臨地実習の現状と今後の課題

演者：福田 由里子 (岐阜赤十字病院 検査部)

4. 臨床検査技師の臨地実習における現状と課題

演者：村椿 智佳子 (富山市民病院 中央研究検査部)



令和7年11月1日(土) 09:30-11:00

第5会場

<テーマ>

臨床一般検査の最前線の取り組み

<ねらい>

一般検査における検査材料は尿、便をはじめとして、体腔液である胸水、腹水、心嚢水のほか、髄液、関節液、羊水、精液など多岐にわたる。実施可能な項目（材料）、報告におけるコメントスタイルは施設ごとに異なり、検査の質を高めるための取り組みも多様化しています。

本シンポジウムでは、「臨床一般検査の最前線の取り組み」と題し、より臨床に役立つ結果報告を行うための方法について大規模病院・中規模病院・小規模病院それぞれの立場から、検査の工夫・課題・展望について紹介いただきます。そして、皆さんには今後の一般検査のあり方についても含め討論の場として参加いただき、自施設にあった新しい取り組みを持ち帰り、実践いただけることを望みます。

司会 星 雅人（藤田医科大学 医療科学部）

前田 るみ子（伊勢赤十字病院 医療技術部臨床検査課）

<講演内容>

1. 大規模病院での取り組み ～質の高い一般検査を目指して～

演者：深谷 仁（三重大学医学部附属病院 検査部）

2. 中規模病院での取り組み ～ジェネラリストを目指して～

演者：森 栄（郡上市民病院 臨床検査部）

3. 小規模病院での取り組み ～付加価値ある丁寧な結果報告～

演者：平田 基裕（医療法人青山病院 臨床検査科）



令和7年11月1日(土) 10:00-11:30

第6会場

<テーマ>

一歩踏み出す微生物検査の標準化と精度管理～地域や施設の取り組み～

<ねらい>

近年、臨床検査分野では標準化や精度管理が求められている。しかし、微生物分野においては、他の分野と比べ標準化や精度管理は遅れていると言わざるを得ない状況にある。現状、微生物分野における標準化や精度管理の方法は決まった方法はなく各地域、各施設で異なっており、無秩序である。また、精度管理においては施設毎のハード面、ソフト面が大きく異なるため一律に同じ方法で実施することは困難な可能性も含んでいる。

この混沌とした状況の中で、一歩踏み出し標準化や精度管理をしている地域、施設の方々にどのような方法で実施しているのかにフォーカスを当て、「中小規模・大規模施設での精度管理の実際」、「地域での標準化への取り組み」について中部圏4施設の先生方にご講演いただく。

司会 永田 恵一（三重大学医学部附属病院 検査部）

石田 和也（静岡済生会総合病院 臨床検査科）

<講演内容>

1. 三重県下でのグラム染色標準化への取り組み

演者：加藤 真也（伊勢赤十字病院 臨床検査課）

2. 共通言語で高める検査の質 -AiCCLS 発

【日常微生物検査における標準手引書 第2版】の挑戦と実践 -

演者：加藤 雄大（JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 診療協同部 臨床検査室）

3. 微生物検査精度管理ははじめの一步 - 試行錯誤の共有とより良い方法を求めて -

演者：浦田 孝之（富山県厚生農業協同組合連合会高岡病院 臨床検査部）

4. 当院における微生物検査の精度管理の取り組み

演者：米玉利 準（岐阜大学医学部附属病院 検査部）



令和 7 年 11 月 2 日 (日) 09:30-11:00

第 3 会場

<テーマ>

NGS を活用する施設の最前線：

バイオインフォマティクス技術者認定と解析ツール

<ねらい>

本企画では、次世代シーケンス（NGS）を実際に活用している施設の最前線の取り組みを紹介する。バイオインフォマティクス技術者認定制度の概要、解析体制の構築と維持、臨床現場における運用上の課題、さらに専門知識がなくても扱いやすい GUI ベースの変異アノテーションツールの活用例について、具体的な事例を通して示す。NGS を日常的に活用する施設で、どのような人材が関与し、どのような支援体制やツールが必要とされているのかを可視化することで、ゲノム医療におけるバイオインフォマティクスの役割と実践の現状を多角的に伝えることを目的とする。

司会 西尾 美帆（松阪市民病院 中央検査室 / がんゲノム解析室）

中山 章文（岐阜医療科学大学 保健科学部臨床検査学科）

<講演内容>

1. バイオインフォマティクス技術者認定について

演者：中村 麻姫（三重大学医学部附属病院 検査部）

2. 自施設での NGS の活用について

演者：西尾 美帆（松阪市民病院 中央検査室 / がんゲノム解析室）

3. 当院における次世代シーケンシングの運用と課題

演者：澤田 清矢（社会医療法人厚生会 中部国際医療センター
中部がんゲノム医療研究センター）

4. GUI ベースの変異アノテーションツール

演者：石倉 隆（ライフテクノロジーズジャパン株式会社 テクニカルサポート）



令和 7 年 11 月 2 日 (日) 09:00-10:30

第 4 会場

<テーマ>

臨床検査技師が視る、POCT の未来と課題

<ねらい>

POCT (point of care testing) とは、被検者の傍らで医療従事者が行う臨床検査である。近年では、POCT 機器による迅速かつ適切な診断・治療、疾病予防、健康増進への貢献により、その重要性がますます高まり病院やクリニック、検診センターだけでなく、在宅医療・災害医療など様々な場面で活用されている。その一方で、精度管理やトレーサビリティ、教育、機器の管理など品質保証 (Quality Assurance : QA) の課題が浮き彫りとなっており、ISO15189:2022 でも POCT 機器の適正運用や、医療現場でのエビデンスに基づいた管理が必要であると考えられている。生物化学分析部門では、多角的な視点から今後の臨床検査と POCT の在り方について考え、最新の知見や現場での実践事例を紹介する。

司会 齊藤 翠 (藤田医科大学病院 臨床検査部)

古森 由規 (市立四日市病院 中央検査室)

<講演内容>

1. ISO 15189:2022 取得に伴うポイント・オブ・ケア検査 (POCT) に関する取り組み
演者：金子 成美 (聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院 臨床検査部)
2. POC コーディネータの役割について
演者：工藤 雄貴 (新城市民病院 臨床検査課)
3. SMBG の精度管理と運用 ―導入から見えてきた課題―
演者：神谷 志穂 (岐阜県総合医療センター 中央検査部)
4. 在宅医療における POCT の意義
演者：中川 凌治 (市立四日市病院 中央検査室)
5. 震災時における CGM の有用性 ～能登半島地震の経験から～
演者：山口 拓也 (社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 臨床検査課)



令和 7 年 11 月 2 日 (日) 09:00-10:30

第 6 会場

<テーマ>

病理検査 ―品質管理の最前線―

<ねらい>

昨今の病理検査は、薄切や染色を中心とした標本作製技術だけでなく、検体の管理や染色の標準化、精度管理また、試薬管理等様々な管理業務が求められるようになってきました。また、日々の検査技術や遺伝子検査の発展により求められる内容も高度化、複雑化しています。施設の規模によって可能な取り組みは異なると思いますが、今回、細胞診の精度管理、試薬管理、WSI 管理、遺伝子検査、コンパニオン検査について代表施設での運用や管理方法を紹介し、それをもとに討論できればと考えています。

現在必要とされている病理検査室の管理（最前線）について議論を深めることで、明日へと一歩踏み出す企画になることを確信しています。

司会 藤田 智洋（小牧市民病院 臨床検査科）

今野 和治（桑名市総合医療センター 医療技術部 検査室）

<講演内容>

1. 細胞診の精度管理 ―富山大学附属病院における取り組み―
演者：小原 勇貴（富山大学附属病院 病理部）
2. GS1 バーコードと Excel VBA を活用した試薬管理
演者：井上 卓（静岡県立こども病院 検査技術室）
3. 当院におけるバーチャルスライドの運用と管理
演者：林 直樹（医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 臨床検査・病理技術科）
4. 当院における遺伝子検査を踏まえた病理検体の取扱いと管理
演者：水口 聖哉（石川県立中央病院 検査室）
5. 免疫組織化学領域のコンパニオン検査の管理
演者：石井 辰弥（大垣市民病院 病理細胞診室）



令和7年11月2日(日) 09:00-11:00

第7会場

<テーマ>

血液担当技師として一歩前進！ ～スキルアップし、仕事にやりがいを～

<ねらい>

タスクシフトが進む中、医師を助ける業務は考えればたくさんあります。医療事故につながるパニック値の報告も重要な事です。近年医療事故において『データを見てなかった・・・』といった事も多々あります。チーム医療として検査室がどのように関わるか、私たちが責任を持ってデータを返せるよう各施設での取り組みを紹介します。また年代を問わずスキルアップは大事です。認定資格に挑戦し、個々のレベルを上げることで医師とのコミュニケーションがとりやすくなり、また自身のモチベーションも変わります。今回はこのような視点から参加者とディスカッションし、若手技師の育成や個々のモチベーションが上がる事につながればと思います。

司会 広瀬 逸子（鈴鹿回生病院 臨床検査課）

杉本 慶子（伊勢赤十字病院 臨床検査課）

<講演内容>

1. 血液検査室の異常値 / パニック値について

演者：干場 大輔（恵寿総合病院 臨床検査課）

演者：西島 来夏（富山県立中央病院 検査科）

2. 血液検査のスキルアップ・・・認定技師を目指そう！！

演者：武村 友貴（公立陶生病院 臨床検査部）

演者：杉山 直久（大垣市民病院 診療検査科）

3. 血液担当技師としてできる臨床支援～中部圏支部でスキルアップを支援します～

演者：大橋 勝春（JCHO 三島総合病院 検査部）

コメンテーター

佐藤 聖子（藤田医科大学病院 臨床検査部）

杉田 拓海（黒部市民病院 臨床検査科）

山崎 貴子（城北病院 検査部）

神戸 歩（岐阜大学医学部附属病院 検査部）



令和7年11月2日(日) 09:00-10:45

第10会場

<テーマ>

AI×循環器検査の最前線 ー臨床応用の実態とリスクマネジメントー

<ねらい>

近年、AI技術は循環器検査の診断精度向上と業務効率化において飛躍的な進展を遂げており、心電図解析や心エコーの自動画像診断を中心に臨床現場での実装が加速しています。本セッションでは、これら最先端のAI技術がどのように現場に取り入れられ、日々の診療にどのようなインパクトをもたらしているのか、具体的な事例を交えて詳しく解説します。また、AIの高度な解析力がもたらす利便性の一方で、過信や誤用による判断ミスリスクも見逃せません。本企画では、そのリスクを的確に評価し、適切に管理するためのリスクマネジメント手法を掘り下げます。臨床検査技師がAI技術と連携しつつ、安全性と精度を両立させた循環器診療を実現するためのポイントや最新の知見を共有し、今後の臨床現場におけるAI活用の方向性を示します。

司会 松林 正人（三重ハートセンター 臨床検査科）

<講演内容>

1. AI×心電図ー自動診断と潜在リスク可視化への活用ー
演者：松本 悠真（市立四日市病院 中央検査室）
2. AIによる自動計測を心エコー図検査で活かす
演者：花井 甲太郎（知多半島総合医療センター 医療技術局 臨床検査技術科）
3. AIとの付き合い方 ドブラとストレイン計測
演者：鈴木 駿輔（静岡県立総合病院 検査部）

ディスカッサー：伊藤 知子（大垣市民病院 生理機能検査室）

油野 岳夫（金沢大学附属病院 検査部）

塩崎 真弓（富山大学附属病院 検査・輸血細胞治療部）



令和7年11月2日(日) 13:15-14:45

第5会場

<テーマ>

発掘！ New リーダー！

<ねらい>

輸血担当技師は検査業務のみならず、自施設の安全で適正な輸血療法の推進に努める重要な役割を担っています。そのために、多職種とコミュニケーションを図り、各種アプローチを実施することで信用・信頼を獲得しています。ですが、中にはアプローチの対象や方法、仕方に悩まれている方もみえると思います。今回、輸血細胞治療部門において「一歩前へ」先進的に取り組まれている施設の技師に各アプローチのご紹介をいただきます。各施設のさらなる輸血療法推進への一助となることを期待します。

司会 羽根 頼子（独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター 臨床検査科）

谷口 彰（伊勢赤十字病院 医療技術部臨床検査課）

<講演内容>

1. 血液製剤使用ガイドライン～臨床へのアプローチ～
演者：松井 杏沙佳（浅ノ川総合病院 検査部）
2. 輸血インシデントアクシデント事例～医療安全からのアプローチ～
演者：榛葉 隆人（浜松医科大学医学部附属病院 輸血・細胞治療部）
3. 輸血教育や力量評価について～新人技師へのアプローチ～
演者：藤巻 拓也（浜松医療センター 臨床検査技術科輸血管理室）
4. 小規模施設の現状と展望～輸血担当技師目線のアプローチ～
演者：岩田 将好（JA 岐阜厚生連東濃中部医療センター東濃厚生病院 検査科）
5. 看護師教育について～看護へのアプローチ～
演者：熊谷 優（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 医療技術部救急検査課）



一般演題目次

第1日目 11月1日 口演

第2会場 (小ホール)

【一般 口演】

<9:00~9:30> 座長: 井上 佳(独立行政法人地域医療機能推進機構 四日市羽津医療センター)

- | | | |
|---|-------------------------------------|----------|
| 1 | セルブロックを用いたPython OpenCV学習支援手法の提案 | 蜂須賀 大輔ほか |
| 2 | 尿沈渣分析装置 AUTION EYE : AI-4510の基礎性能評価 | 寺島 みさきほか |
| 3 | 髄液一般検査がクリプトコッカス髄膜炎の診断の一助となった1例 | 山下 紗奈ほか |

【輸血 口演】

<9:30~10:00> 座長: 南里 隆憲(名古屋市立大学病院)

- | | | |
|---|--|----------|
| 4 | 免疫グロブリン大量静注療法後に抗Aが検出され、O型赤血球製剤を輸血した1症例 | 中村 美香ほか |
| 5 | 過粘稠度症候群により輸血前検査に苦慮した一例 | 衾永 莉奈ほか |
| 6 | O型との判別に苦慮したA亜型の症例 | 若林 さやかほか |

【血液 口演】

<10:00~10:40> 座長: 神戸 歩(岐阜大学医学部附属病院)

- | | | |
|----|---|---------|
| 7 | 凝固検査装置の搬送ライン接続による残存血小板数および測定結果への影響 | 見浦 悠斗ほか |
| 8 | 当院における血小板測定異常に対する運用基準の見直しとその実践 | 足立 翔里ほか |
| 9 | DOACによるPT/APTTへの影響とDOAC-Stopを用いた薬剤除去に関する基礎的検討 | 川村 一誠ほか |
| 10 | クロスミキシングテストにおけるAPTT試薬変更の影響とその特徴 | 安岐 優伽ほか |

<10:40~11:10> 座長: 佐藤 聖子(藤田医科大学病院)

- | | | |
|----|---------------------------------|---------|
| 11 | 破碎赤血球の所見報告により早期に治療を開始できたTMAの3症例 | 高山 拓也ほか |
| 12 | 血液像自動分析装置DI-60の新規導入における効果 | 梶本 幸伸ほか |
| 13 | 血液像自動分析装置DI-60を活用した破碎赤血球の定量評価 | 齋藤 実菜ほか |

【免疫血清 口演】

<11:10~11:50> 座長: 武藤 延秋(JA岐阜厚生連 東濃中部医療センター東濃厚生病院)

- | | | |
|----|------------------------------------|----------|
| 14 | 急速凝固血清採血管が血清検体の生化学免疫検査測定値に及ぼす影響の検討 | 牛丸 明香理ほか |
| 15 | S2,3PSA%の臨床的有用性の検討 | 青木 健人ほか |
| 16 | コルチゾール及びACTHの院内導入に向けた基礎検討と院内導入後の効果 | 石本 睦 |
| 17 | HISCL M2BPGi-Qt試薬の基礎的性能評価 | 濱口 穂那美ほか |

【病理 口演】

<13:10~13:50> 座長: 福田 弘幸(市立砺波総合病院)

- | | | |
|----|--|---------|
| 18 | 特殊染色自動化に向けた検討 | 大越 純也ほか |
| 19 | 酸性脱灰液がレーザーカセット印刷装置 (C100) の印刷面への与える影響の検討 | 宮本 有理ほか |
| 20 | 当院における病理診断報告書の既読未読管理 | 村瀬 華ほか |
| 21 | EGFR遺伝子変異における単一遺伝子検査とマルチプレックス検査との検討 | 池谷 朱美ほか |

【生理 口演】

<14:00~14:30> 座長: 中川 夏輝(国立大学法人 富山大学附属病院)

- | | | |
|----|--------------------------|----------|
| 22 | HACEK群による感染性心内膜炎の一例 | 丸山 明日香ほか |
| 23 | ヌーナン症候群に合併した肥大型心筋症の一例 | 山中 梓紗ほか |
| 24 | 特異な左室壁運動異常を呈したループス心筋炎の一例 | 山田 主ほか |

<14:30~15:00> 座長: 神谷 敏之(社会医療法人 蘇西厚生会 松波総合病院)

- | | | |
|----|-------------------------------------|----------|
| 25 | 空手パンチが引き金となった外傷性心筋梗塞の1例 | 新家 加奈子ほか |
| 26 | 冠動脈瘤を伴った冠動静脈瘻の症例 | 西野 諒ほか |
| 27 | 大動脈四尖弁における弁閉鎖様式の検討: bill signの臨床的意義 | 中津 脩平ほか |

<15:00~15:30> 座長: 堤坂 祥子(静岡済生会総合病院)

- | | | |
|----|--|---------|
| 28 | 首下がり症候群の治療効果判定における超音波検査の有用性について | 鈴木 遼ほか |
| 29 | 腹部軟部組織に発生した軟部血管線維腫(Angiofibroma of soft tissue ; STA)の一例 | 堀内 明子ほか |
| 30 | 三重県下初となる乳腺自動超音波検査装置 (Invenia ABUS 2.0) 導入について | 上阪 浩矛ほか |

<15:30~16:00> 座長: 塩崎 真弓(国立大学法人 富山大学附属病院)

- | | | |
|----|--|----------|
| 31 | IPMN (膵管内乳頭粘液性腫瘍) の経過観察中に膵管と胃の交通を認めた症例 | 太田 有紀ほか |
| 32 | 超音波検査が診断に有用であった膵野型膵管癌の一例 | 中嶋 奏歩ほか |
| 33 | 肝細胞癌との鑑別に苦慮した肝血管筋脂肪腫の一例 | 大河内 菜央ほか |

第2日目 11月2日 口演

第2会場 (小ホール)

〔生理 口演〕

<9:00~9:30> 座長: 前田 圭介(藤田医科大学)

- | | | |
|----|----------------------------------|----------|
| 34 | 急速進行性に両側聾を呈したANCA関連血管炎性中耳炎の一例 | 西谷 静香ほか |
| 35 | 睡眠時反復検査における客観的眠気と聴覚変化応答 | 中山 裕介ほか |
| 36 | 当院における体ブレスチモグラフ法を用いた精密肺機能検査の比較検討 | 井田 葉津季ほか |

<13:15~13:45> 座長: 信太 俊範(鈴鹿中央総合病院)

- | | | |
|----|-------------------------------------|----------|
| 37 | 当院のタスク・シフト/シェアの取り組み~造影超音波検査にて静脈路確保~ | 溝口 君子ほか |
| 38 | 当院における心エコー図検査の内部精度管理 | 浦山 直樹ほか |
| 39 | 神経伝導検査における検査手技標準化の取り組みと効果 | 伊藤 馨太郎ほか |

<13:45~14:25> 座長: 油野 岳夫(金沢大学附属病院)

- | | | |
|----|--|----------|
| 40 | 透析患者における心音図検査装置(超聴診器)の有用性についての検討 | 伊藤 明日香ほか |
| 41 | 心房細動類似波形を呈する心室二重応答の一例 | 山田 直弥ほか |
| 42 | 12誘導心電図から左上大静脈遺残を推測しカテーテルアブレーションに貢献できた1例 | 前田 瑞葵ほか |
| 43 | 心電図検査における内部精度管理の取り組み | 佐々木 歩美ほか |

〔微生物 口演〕

<9:30~10:10> 座長: 大澤 稜(地方独立行政法人 岐阜県総合医療センター)

- | | | |
|----|---------------------------------------|----------|
| 44 | GENCUBEを用いたマイコプラズマPCR検査が抗菌薬適正使用に与える影響 | 鈴木 涼太ほか |
| 45 | 当院におけるFilm Array®システムの活用について | 加納 若奈ほか |
| 46 | <i>Bartonella henselae</i> 感染性心内膜炎の1例 | 三田村 侑香ほか |
| 47 | 髄膜炎菌による肺炎と敗血症、髄膜炎を発症した1症例 | 福井 花依ほか |

<10:10~10:40> 座長: 片山 雪絵(医療法人社団 浅ノ川 浅ノ川総合病院)

- | | | |
|----|--|---------|
| 48 | ESBL産生腸内細菌目細菌におけるRaST-TAS®の性能評価 | 村上 琴音ほか |
| 49 | 臨床検体におけるクロモアガー mSuper CARBAの夾雑菌発育実態の検討 | 川島 大輝ほか |
| 50 | 当院における抗酸菌検出状況について | 田中 美月ほか |

【チーム医療・その他 口演】

<10:40～11:20> 座長: 日比 敏男(大垣市民病院)

- | | | |
|----|--|---------|
| 51 | 当院NSTにおける臨床検査技師の役割 | 長坂 直子ほか |
| 52 | 内視鏡検査室における臨床検査技師の介入 | 高川 真唯ほか |
| 53 | 造影超音波検査前の静脈路確保に関する運用改善の取り組み | 鈴木 里奈ほか |
| 54 | 当院における採尿補助具および採尿カップ専用蓋の利用者調査と患者背景についての検討 | 上野 嘉彦ほか |

【遺伝子・染色体 口演】

<11:20～11:50> 座長: 村上 真理子(医療法人 豊田会 刈谷豊田総合病院)

- | | | |
|----|---|---------|
| 55 | 全自動遺伝子解析システムAlinity m System導入とその効果 | 寺本 江見ほか |
| 56 | NGSで検出された低頻度EGFR変異に対するdigital PCR検査の有用性 | 西尾 美帆ほか |
| 57 | 岐阜県内における染色体・遺伝子関連検査の実施状況調査 | 澤田 清矢ほか |

【臨床化学 口演】

<14:25～14:55> 座長: 野村 ひろみ(独立行政法人 国立病院機構 金沢医療センター)

- | | | |
|----|---------------------------------------|---------|
| 58 | 当院における生化学免疫部門フルオートメーションシステムによる効率化について | 芦川 直輝ほか |
| 59 | 当院における5年間の重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の症例検討 | 山下 舞耶ほか |
| 60 | Fe、UIBC、フェリチン検査の院内導入の効果について | 畠山 令ほか |

第1日目 11月1日 示説

第9会場 (第2ギャラリー)

ポスター会場A

【一般 示説】

<15:00~15:40> 座長: 伊藤 彰洋(JA愛知厚生連 豊田厚生病院)

- | | | |
|----|-----------------------------------|---------|
| 61 | 尿定性試験機器更新における相関性評価 | 辻 愛琳ほか |
| 62 | 当院における尿沈渣検査内部精度管理への取り組み | 長澤 美紀ほか |
| 63 | 小児の尿沈渣においてトスフロキサシン結晶を認めた1症例 | 田中 佑佳ほか |
| 64 | セフトリアキソンを疑う薬物結晶の検出意義と報告方法の重要性について | 前田 佳成ほか |

<15:40~16:20> 座長: 加藤 洋平(岐阜大学医学部附属病院)

- | | | |
|----|--|---------|
| 65 | 多項目自動血球分析装置XRシリーズを用いた髄液検査 | 西尾 愛結ほか |
| 66 | メイ・ギムザ染色にて髄液塗抹検査が有用であった原発性中枢神経系悪性リンパ腫2症例 | 佐藤 綾音ほか |
| 67 | 変形性膝関節症(OA)における関節液顕微鏡所見について | 米田 操ほか |
| 68 | 当院における腹水濾過濃縮再静注法(CART)濾過濃縮前後の細胞数測定の実用性 | 藤上 卓馬ほか |

ポスター会場E

【輸血・チーム医療・臨床化学・教育 示説】

<15:00~15:30> 座長: 村越 大輝(地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院)

- | | | |
|----|------------------------------------|---------|
| 69 | HPLC法におけるHbA1c測定エラーから異常Hbが疑われた一例 | 大石 藍ほか |
| 70 | プール血清の保存状態が酵素活性に及ぼす影響について | 伊藤 愛佳ほか |
| 71 | 新生児におけるアンバウンドビリルビン及びBil/Alb比に関する検討 | 廣瀬 翔ほか |

<15:30~16:00> 座長: 北尾 時輝(焼津市立総合病院)

- | | | |
|----|---------------------------------------|---------|
| 72 | 血液内科にて化学療法を実施した患者におけるレジメン別輸血効果の推移について | 阿部 祐子ほか |
| 73 | 当院における輸血前後感染症検査および輸血前検体保管の取り組み | 中村 由美ほか |
| 74 | 臨床検査技師による初期研修医輸血教育の取り組みと成果 | 岡本 拓真ほか |

<16:00~16:30> 座長: 仁科 正樹(独立行政法人 国立病院機構 三重中央医療センター)

- | | | |
|----|----------------------------------|---------|
| 75 | 物語「ばい菌博士のつぶやき」の著作と国家試験対策への利用について | 村田 園萌ほか |
| 76 | 臨地実習において内視鏡のみの実習受け入れを経験して | 今村 倫敦 |
| 77 | 臨地実習における当院の取り組みと課題 | 市川 孝昭ほか |

<16:30~17:00> 座長: 羽切 政仁(一般財団法人 芙蓉協会 聖隷沼津病院)

- | | | |
|----|-----------------------|---------|
| 78 | 当院におけるSAP導入・継続支援の取り組み | 久住 裕俊ほか |
| 79 | 臨床検査技師による患者同意取得の取り組み | 西尾 美帆ほか |
| 80 | 再採血削減に向けての検査室からの提案 | 高野 光平ほか |

ポスター会場D

[血液 示説]

<15:00~15:40> 座長: 杉澤 きよ美(沼津市立病院)

- 81 DICを契機に診断された骨髄癌腫症の一例
- 82 Cuplike芽球を認めたAMLの一例
- 83 縦隔原発胚細胞腫-血液悪性腫瘍症候群の1症例を経験して
- 84 治療抵抗性で急激な経過を辿った劇症型多発性骨髄腫の1症例

伊藤 蒼ほか
平尾 早希ほか
寺田 しのぶほか
松浦 いぶきほか

<15:40~16:20> 座長: 杉田 拓海(黒部市民病院)

- 85 当院で経験した芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍 (BPDCN) の一例
- 86 重度の貧血を呈した骨髄原発性悪性リンパ腫の一例
- 87 急性巨核芽球性白血病の同定における芽球形態とCD41強陽性の意義
- 88 希少なアグレッシブNK細胞白血病の1症例

堺 夕貴ほか
柴田 洋綺ほか
萱場 理恵ほか
永谷 大輔ほか

<16:20~17:00> 座長: 山崎 貴子(公益社団法人 石川勤労者医療協会 城北病院)

- 89 低寄生率の血液塗抹標本が診断の契機となった三日熱マラリアの1症例
- 90 無形性発作を呈した遺伝性球状赤血球症の1例
- 91 血液検査室からの進言が迅速な診断に繋がったパルボウイルス B 19 感染症症例
- 92 ヒトパルボウイルス感染症による貧血を伴わない赤芽球癆における網状赤血球の意義

石垣 星南ほか
村田 亘ほか
佐野 智紀ほか
谷渕 将規ほか

ポスター会場F

[病理・細胞・チーム医療・その他・管理運営 示説]

<15:00~15:40> 座長: 岡本 智裕(社会医療法人峰和会 鈴鹿回生病院)

- 93 子宮体部脱分化癌の1例
- 94 皮膚クリプトコックス症を認めた一例
- 95 当院のHER2-FISH検査「増幅あり」患者のHER2/CEP17比率と動向調査について
- 96 コンパクトパネル導入に向けた臨床へのアプローチと導入後の変化

藤岡 眞理ほか
澤田 有倭香ほか
稲垣 裕介ほか
越戸 香琳ほか

<15:40~16:20> 座長: 宮野 拓也(豊橋市民病院)

- 97 乳腺細胞診で鑑別困難と判定した線維腺腫内発生DCISの一例
- 98 当院における子宮頸がん検診の実情
- 99 当院における液状化検体細胞診 (liquid-based cytology : LBC) 法導入の試み
- 100 当院での病理検査業務拡大における課題と効果

丸井 理恵子ほか
大嶋 楓ほか
橋村 正人ほか
矢野 孝明ほか

<16:20~17:00> 座長: 小林 千明(伊勢赤十字病院)

- 101 当院のパニック値報告における取り組み
- 102 当院におけるパニック値運用の見直しについて
- 103 当院における医療安全への新たな取り組み
- 104 当院における災害対応体制整備に向けた取り組み

中島 佳那子ほか
長谷川 圭ほか
長谷川 有紀ほか
高本 智史ほか

ポスター会場A

[生理 示説]

<16 : 20～16 : 50> 座長: 岸江 知哉(社会福祉法人 恩賜財団 済生会松阪総合病院)

- | | | |
|-----|----------------------------|----------|
| 105 | 当院におけるパッチ型長時間ホルター心電計の運用経験 | 土田 悠加ほか |
| 106 | パッチ型長時間心電計の自動解析後の目視による追加解析 | 魚尾 紗羽ほか |
| 107 | 当院におけるパッチ型長時間心電計の使用経験 | 鈴木 秋桜里ほか |

ポスター会場B

<15 : 00～15 : 30> 座長: 長屋 麻紀(地方独立行政法人 岐阜県総合医療センター)

- | | | |
|-----|--------------------------------------|----------|
| 108 | 生理検査室におけるISO15189取得に向けた取り組み | 佐野 七菜ほか |
| 109 | 当院生理検査における臨地実習の取り組み | 中島 佳那子ほか |
| 110 | ISO15189取得に向けた当院における心電計の内部精度管理の現状と課題 | 向井 優真ほか |

<15 : 30～16 : 00> 座長: 神野 真司(藤田学園 藤田医科大学ばんだね病院)

- | | | |
|-----|-----------------------------|---------|
| 111 | 側頭動脈エコーが巨細胞性動脈炎の診断に有効であった一例 | 中出 慧ほか |
| 112 | severe ASと誤判定した僧帽弁逸脱症の一例 | 山岸 拓巳ほか |
| 113 | 当院での経皮的卵円孔開存閉鎖術における技師の役割 | 福島 詩織ほか |

<16 : 00～16 : 30> 座長: 岩崎 佐知子(富士市立中央病院)

- | | | |
|-----|---|----------|
| 114 | 当院にて実施された法的脳死判定での脳波検査の取り組み | 飯田 佳子ほか |
| 115 | VEEGとトレンド解析が治療評価に有用であった難治頻回部分発作重積型急性脳炎の1例 | 坪井 日菜里ほか |
| 116 | 呼気NO濃度測定装置において内部精度管理を行うことで機器の不具合を指摘し得た事例 | 山中 美波ほか |

<16 : 30～17 : 00> 座長: 中出 祐介(金沢大学附属病院)

- | | | |
|-----|--|---------|
| 117 | 表皮嚢腫における超音波検査所見と病理組織診断の不一致症例の検討 | 糸川 沙耶ほか |
| 118 | 代謝異常関連脂肪性肝疾患における線維化評価: FIB-4・FIB-3の比較 | 田中 友梨ほか |
| 119 | 住民健診における血液線維化マーカーおよび肝硬度測定を用いた線維化リスク評価の検討 | 加藤 里沙ほか |

〔微生物 示説〕

ポスター会場C

<15 : 00～15 : 40> 座長: 中村 雅彦(富山県立中央病院)

- 120 インフルエンザ関連肺アスペルギルス症患者の救命に貢献できた1例
- 121 当院の便汁検査で検出された *Brachyspira*属菌について
- 122 血液培養から*Bacillus cereus*を検出した当院の事例
- 123 非結核性抗酸菌感染による化膿性脊椎炎の一例

籠 徹ほか
林 夢矢ほか
児玉 佳輝ほか
伊藤 香ほか

<15 : 40～16 : 20> 座長: 鈴木 更織(西尾市民病院)

- 124 遺伝子検査が有用であったアメーバ性肝膿瘍の1症例
- 125 *Corynebacterium*関連尿路感染を起点としたNH₃上昇による意識障害の一例
- 126 *Enterobacter hormaechei* ESBL産生株に関する報告
- 127 活動性結核患者におけるQFT検査の陽性一致率

森川 智仁
谷口 寿章ほか
水野 愛海ほか
鈴木 真生ほか

<16 : 20～17 : 00> 座長: 石井 浩崇(N T T東日本 伊豆病院)

- 128 バクテアラートにおけるSA・SNボトルとFA Plus・FN Plusボトルの比較検討
- 129 当院におけるGENECUBEを用いた百日咳菌遺伝子検査の運用に向けた検討
- 130 菌血症における血中エンドトキシン濃度による有用なカットオフ値の検討
- 131 当院微生物検査室における内部精度管理「目合わせチェック」の状況

加藤 淳也ほか
小島 奏汰ほか
横山 颯大ほか
高羽 桂ほか



令和 6 年度 日臨技中部圏支部医学検査学会 (第 62 回) 発表演題

演題番号 : 82

『 髄液スキャッタグラムの特徴が診断の一助となった 4 症例 』

藤田医科大学病院

関 悠里

演題番号 : 104

『 溶血が生化学検査に及ぼす影響 』

藤田医科大学病院

市川 勇斗

演題番号 : 117

『 アニリン (劇物) を用いない Azan 染色の検討 』

藤田医科大学ばんだね病院

大塚 滯



ランチオンセミナー

11月1日(土) 12:00-13:00

<ランチオンセミナー 1> 第1会場

共催：ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

検査最前線から見える未来 ～進化する技術と人材育成の新たなかたち～

演者 広瀬 逸子（社会医療法人 峰和会 鈴鹿回生病院）
寺島 宏（名古屋市立大学医学部附属東部医療センター）
鈴木 崇峰（愛知医科大学病院）

座長 林 豊（社会福祉法人 恩賜財団 済生会松阪総合病院）

<ランチオンセミナー 2> 第3会場

共催：シスメックス株式会社

Caresphere™ XQC と Caresphere™ LWS 活用による運用改善 ～精度管理と検体検査システムの連携～

演者 高橋 建一（シスメックス株式会社 ICT 営業推進部）

<ランチオンセミナー 3> 第5会場

共催：積水メディカル株式会社

採血管の取り扱いと検査値への影響について

演者 横田 佳那代（積水メディカル株式会社）

＜ランチョンセミナー 4＞ 第 6 会場

共催：アボットジャパン合同会社

病院から求められる検査室へ - 検査データの戦略的活用 -

演者 太田 健二（アボットジャパン合同会社）

司会 三輪 美咲（アボットジャパン合同会社）

＜ランチョンセミナー 5＞ 第 7 会場

共催：アストラゼネカ株式会社

進化する重症喘息治療 ～喘息治療にも広がる Precision Medicine ～

演者 伊藤 健太郎 先生（松阪市民病院 呼吸器内科 部長）

＜ランチョンセミナー 6＞ 第 12 会場

共催：サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社

臨床検査室 NGS の新時代

～ Genexus Integrated シーケンサー導入による

遺伝子解析ワークフローの最適化～

演者 雨宮 健司（地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立中央病院 ゲノム解析センター
主任臨床検査技師）

座長 郡司 昌治（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院
検査部技師長 兼 病理部 細胞分子病理診断部 輸血部技師長）

11月2日(日) 12:00-13:00

<ランチョンセミナー 7> 第1会場

共催：シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

血液でわかる肝線維化：ELF スコアと非侵襲的検査の最前線

演者 荻原 貴裕（シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社）

司会 大加瀬 奨之介（シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社）

<ランチョンセミナー 8> 第3会場

共催：東ソー株式会社

**基礎から確認しよう、甲状腺機能検査（TSH、FT4、FT3）
と自己抗体検査（TgAb、TPOAb、TRAb）**

演者 津浦 正史（東ソー株式会社 バイオサイエンス事業部 カスタマーサポートセンター）

司会 古賀 大士（東ソー株式会社 名古屋支店 バイオサイエンス G）

<ランチョンセミナー 9> 第7会場

共催：日本光電工業株式会社

どうする？生理検査におけるパニック値への取り組み

演題①：生理検査の質と安全を担保するためには

演題②：こうしてます！当院におけるパニック値報告

演者 田中 夏奈（小牧市民病院 診療技術局 臨床検査科）

新家 加奈子（三重大学医学部附属病院 検査部）

司会 奥田 里美（日本光電工業株式会社 中部支店 ソリューション営業部）



ミニランチョンセミナー

11月1日(土) 12:15-13:00

< 円卓のミニランチョン > 第4会場

学会実行委員会企画

テーマ「臨床検査技師になったら技師会へ入会しよう！スキルアップの仕方！」

講師 棚橋 伸行（鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部臨床検査学科）

11月2日(日) 12:20-13:00

< ミニランチョン 1 > 第5会場

学会実行委員会企画

テーマ「スキルアップ血液培養検査！ ～AST活動に役立つ検査を目指して～」

講師 山田 幸司（京都府立医科大学附属病院 臨床検査部技師長）

司会 高羽 桂（三重県立総合医療センター）

< ミニランチョン 2 > 第6会場

学会実行委員会企画

テーマ「臨床検査技師の新たな一歩！ ～在宅医療事業で地域医療構想へ参画～」

講師 高村 好実（一般社団法人 日本予防医療推進機構 理事長
産官学連携 手をつなぐ南予プロジェクト 代表
メディテックヘルスケアサポート 代表）

司会 山本 幸治（三重県臨床検査技師会参与）



三臨技 特別企画

1

(土)

遺伝子検査 を学ぶ部屋

遺伝子検査の歴史から
リキッドバイオプシー
の未来。CAP認定取得
の実際。スペシャルな
講師陣で遺伝子検査を
1日学べる特別企画♪

1

(土)

生理検査の 内部精度管理

なんと！生理検査の内部
精度管理が実際に体験
できる！日本の品質
保証を牽引する講師陣
が直接指導！この機会
をお見逃し無く～！

2

(日)

災害協定は なぜ必要なのか

行政と三臨技が災害協
定を締結しました
(祝) 検査試薬卸連
合と行政、そして技師
会で災害時に備えるこ
との意義を伝えたい！

1

(土)

人数限定 情報交換会

参加して損なし！
「東洋軒」のあのメ
ニューが食べ放題？
サクッと終わって津
の街へGo！ついで
に豪華景品もGetだ
ぜ～♪

1

(土)

ELFスコア 臨床的有用性

非侵襲的な血液検査で
肝臓の線維化進行リス
クを評価！
なんと、ここでは伊勢
赤福の朔日餅が食べれ
るよ！ 必見👀

1

(土)

プレゼン神 三重に降臨

最新の話題と共に、
営業のプロから、ス
ライド作成&トーク、
プレゼンの極意を学
べ！ 赤福の和ス
イーツタイム

おいしい 地酒が集合

飲みすぎ厳禁！
適度な飲酒はリ
ラックス効果や
ストレス軽減、
コミュニケー
ションの円滑化
を促進！

スタンプラリー抽選会は日曜日開催！

学会2日目(11/2) 限定！スタンプラリー抽選会を開催します！
学会期間中で集めたポイントでガラガラが回せるよ！
「松阪牛」をはじめ、その他豪華景品をご用意しております。
宇城学会長を見つければ高得点だからみんなで探してね！





令和7年度日臨技中部圏支部
医学検査学会三臨技企画
CGI社遺伝子検査一日セミナー
「遺伝子検査を学ぶ部屋」

ズーンとくる! 世界基準のゲノム検査

開催日: 2025年11月1日(土)

開催時間: 午前の部10:00~11:45

午後の部13:10~17:00

場所: 三重県総合文化センター

レセプションルーム(文化会館棟 1階)「第12会場」



弘津 陽介 先生

山梨県立中央病院
ゲノム解析センター 部長



北澤 淳一 先生

青森県立中央病院副院長
病院機能評価審査官、
CAP査察官、ISO 15189審査員



ジュリー・コルビー

株式会社CGI CEO
イノベーションハブ創業者チーム
(シンガポール国立大学)

他のプログラム

☆松阪市民病院☆GxD Inc.☆株式会社レビティジャパン☆アズワン株式会社



CHUBU63
One step forward

JAMT 臨技企画

株式会社 CGI



日臨技中部圏支部学会三臨技企画 CGI One-Day Seminar

文化会館等1階 レセプションルーム 総合司会 CGI CEOジュリー・コルビー



10:00~10:35

CGI特別講演 日本にイノベーションを! 遺伝子検査の世界情勢
演者 CGI CEO ジュリー・コルビー



10:40~11:10

院内で実現する遺伝子検査:ゴールドスタンダード認定と
臨床導入のメリット 演者 松阪市民病院 西尾美帆技師

11:15~11:45

受託試験会社の立場から:CAP認定の経験と
マルチオミックスへの展開 GxD Inc.



聴きに
来てね

学会主催 ランチョンセミナー (サーモフィッシュャーサイエンティフィック株式会社)

13:15~14:10

特別講演1 はじめてでも分かる遺伝子検査:歴史と未来図から学ぶ
座長 松阪市民病院呼吸器内科部長 伊藤健太郎先生
演者 山梨県立中央病院ゲノム解析センター 弘津陽介先生

14:20~14:50

＜細胞由来標準サンプルで行う内部精度管理とケーススタディ＞
レビティジャパン社

14:55~15:25

スイーツセミナー(ケーキとコーヒーのご準備)
「外部精度管理は義務じゃない、チャンスだ」
結果を活かす遺伝子検査の品質保証 CGI社



鳥羽国際ホテル
伝統のチーズケーキ

15:30~16:00

「作業効率化/インシデント低減に向けたレーザー印字による
検体管理のススメ」「環境汚染の防止を考慮した
遺伝子検査施設建設の事例」 アズワン株式会社

16:10~17:00

特別講演2 検査の視点で読み解く
遺伝子検査を内検化する時代の国際基準
演者 青森県立中央病院副院長 北澤淳一先生

座長
松阪市民病院 院長
畑地治先生

検査室運用におけるツール紹介



CHUBU63 来てよかったも実感!
One step forward JAMT **臨技企画**

生理検査の

内部精度管理



11月1日 土 13:30~15:30

第10会場(第1リハーサル室)

なんと!

医歯薬出版株式会社協賛

月刊『Medical Technology』

2025年2月号の特集と夢のコラボ

大反響を呼んだ特集

「生理機能検査の内部精度管理 理想と現実

—できることから始めよう!」

執筆者たちが実際の装置を使って内部精度管理の手順を実演、さらに直接指導で体験できる! 相談也大歓迎!
日本の品質保証を牽引する講師陣が三重に集結!
「今日からあなたのスタンダードが変わります★」
この機会を絶対にお見逃し無く~!

直接指導をしてくれる講師を紹介



超音波担当

中島英樹
筑波大学附属病院
「ファントムlove♥」



呼吸機能担当

中出祐介
金沢大学附属病院
「最新機種用意♥」



脳波・その他担当

西村とき子
日本適合性認定協会
「裏技教えます!」



心電図・脳波担当

植松明和
大東文化大学
「生理の最前線だ!」

※現地で全ての体験コンプリートでMedical Technology2月号プレゼント! (先着10名)



災害

協定はなぜ必要なのか

11月2日 日

会場 第1会場（多目的ホール）

9:15 ~ 10:00

三重県と三臨技の協定締結 記念企画！



災害時における臨床検査技師の派遣に関する協定締結式の様子

<内容と演者>

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1, 災害支援を経験して | 南部重一（日臨技中部圏支部 支部長） |
| 2, 災害協定までの道のり | 山本幸治（三重県臨床検査技師会 参与） |
| 3, 卸連合会の役割 | 菅谷哲彦（日本臨床検査薬卸連合会） |
| 4, 行政の立場から | 横井陽来（三重県医療保健部医療政策課） |

**来場者へ！（先着100名）
防災関連グッズプレゼント**

協賛：伊勢久株式会社



CHUBU63 来てよかったを実感!
One step forward JAMT **臨技企画**



学会 情報交換会

11月1日 土 18:00 ~ 19:30



定員 : 100名

参加費 : 4,000円

会場 : RIZ CAFÉ (東洋軒)

学会会場内

学会当日受付のみ

* 定員になり次第受付終了

* 参加費の支払いは当日となります



乾杯する前から飲みOK

(挨拶の時は一旦注目!)

豪華景品が当たる抽選会
次年度担当技師会PR!



※企画は突如変更になることがあります。 ※車両の運転をされる方、20歳未満の方は飲酒ダメ。



ELFスコアの 臨床的有用性

非侵襲的な血液検査で肝臓の線維化進行リスクを評価

11月1日 土 **15:00 ~ 15:30**

会場 第**3**会場(セミナー室A)

<テーマ>

ELFスコアの臨床的有用性と院内導入について

<司会>

山本 幸治 (三重県臨床検査技師会参与)

<演者>

- 1, 荻原 貴裕 (シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社)
- 2, 青木 健人 (済生会松阪総合病院臨床検査課)

ご来場特典

なんと **赤福の朔日餅!**

和菓子セミナー

SIEMENS
Healthineers

協賛: シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社



CHUBU63 来てよかったも実感!
One step forward JAMT 臨技企画

プレゼンの神様 三重に降臨!

11月1日 土

16:00 ~ 16:30

会場 第7会場 (大会議室)

司会はわたくし
広瀬逸子が務めます♥
(三臨技副会長)



さあ、今回
降臨する神を紹介♥

ご参加企業

栄研化学株式会社
からの神!
RYO YAMADA



株式会社エイアンドティー
からの神!
KAITO MIZUNO



和のスイーツを用意

前のページの物と同じ
ですが余りではござい
ませんのよ💧

感謝の想いで
100人分ご用意してお
ります。



※企画は突如変更になることがあります。



CHUBU63 来てよかったを実感!
One step forward JAMT 臨技企画



三重の

地酒が大集合

無料

11月1日**土** 2日**日**

第8会場(第1ギャラリー) 無くなり次第終了!

近年、アイスブレイクの意味合いも含め飲酒等も楽しみながらで議論できる学術集会が増えてきた(もちろん飲みすぎは厳禁!)

三重県は、伊勢志摩の美しい自然や熊野古道など、歴史と文化が息づく地域です。豊かな水資源と気候条件に恵まれたこの地は、稲作に適しており、高品質な酒米が作られ、洗練された日本酒が数多く生まれています。歴史のある地には美味しい酒がある。美味しい酒には歴史と物語がある。

本学会で三重の美味しい地酒に出会い、あなたの新しい物語の1頁に加えてください。

協賛: 株式会社エヌケーティー

ご用意する地酒の一例(他にも魅力的な銘柄をご用意)

龍自慢 滝水流



軽い口当たりと爽やかな味わいが特徴。G7伊勢志摩サミット晩さん会食中酒。質問したいけどなかなかできない人はハイ!

半蔵 純米大吟醸神の穂



ふくらみのある柔らかな口あたり、ほんのりと甘みを感じるやさしい味わい。会場を歩き回って疲れたときに一息しませんか?

極上 宮の雪



極低温で醗酵させる吟醸造りによって、フルーティで香り豊かなお酒。世界酒類コンクール金賞受賞酒。発表を頑張った自分へのご褒美。

三重の寒梅 純米吟醸 辛口



The淡麗辛口! 爽やかな香りですっきりとした味わい。山田錦の持つ芳醇な旨味と辛口の切れの良さ。眠気覚ましにどうぞ!

義左衛門 純米吟醸



清々しい爽やかな香りと学会酒にピッタリのすっきりした味わい。緊張をほぐし、初めて話す人とも意気投合間違いなし!

作 銘柄は未定



三重を代表する銘柄。作シリーズの中で何が出るかはお楽しみ。全国どこでも飲めますが、自撮り用に用意。日本酒デビューの方にお勧め!

「検査のその先へ」

臨床×教育×学生が語るコミュニケーションの未来

日時 11月1日 土 9:30～11:00 @第4会場 セミナー室C

11月2日 日 10:30～12:00 @第5会場 視聴覚室

場所 三重県総合文化センター

対象 技師、養成校の先生、学生どなたでも参加可能です！！

昨年の様子



日程

1日目

- 内容：①臨床現場におけるコミュニケーションの現実と課題
②教育現場で育てるべきコミュニケーション力とは
③小学生もわかる臨床検査技師の自己紹介を考えよう

2日目

内容：1日目の内容のまとめ、振り返り、シェア、質疑応答など

お申し込みはこちらから！

定員に達し次第締め切り
となります！



えんたくん

お問い合わせ

臨床検査技師学生団体SOLS mail : sols.100ninkaigi@gmail.com



こんにちは！！臨床検査技師学生団体SOLSです！

今年も学生フォーラムの運営をさせていただけることとなりました。今年1はSOLSとして3年目の企画・運営となり、過去最大規模での実施となります。1日目は会話促進ツール"えんたくん"を用いてワークショップを実施します。2日目には1日目の学びや気づきを全体へ発信・共有することで理解を深め、今後各々の選択に有意義な場所、時間をお届けします。ぜひ、ご参加ください！！

SOLSってなに？？！！

2022年に「臨床検査技師 100 人カイギ」から発足し、全国の検査学生が集まり、SOLSとして活動を行っている。SOLにはラテン語で太陽という意味があり、全国の学生・現役臨床検査技師・教員が交流を深め、それぞれが輝ける未来をつくることを目標に活動している。

学生フォーラムについて…

日頃の肩書や立場では話せないようなことを、対等に話し合ってみたいという思いから、同じ円卓を囲んでフラットに語り合う機会の創出を目的にこの企画が始まった。沢山の方々のお力添えにより、今年もこのような学生フォーラムが実現した。

本テーマの背景

近年、タスクシフトの進行や医療現場の多職種連携が加速するなかで、臨床検査技師にも高いコミュニケーション能力が求められるようになってきている。加えて、教育現場においても、技術だけでなく「人と関わる力」をどのように育てていくかが問われている。このような背景のもと、本フォーラムでは、臨床・教育・学生それぞれの視点から、コミュニケーションのあり方とその未来について考える。

参加者の声

- ・垣根を超えた立場での意見をたくさん聞いたのですごく勉強になった。
- ・普段、県外の現場で働いている技師の方とお話しする機会がないので、距離感が近くなったような気がして、楽しめました！参加してよかったです！
- ・学生さんの声を直接聞く事が出来たこと。

学生フォーラム 運営メンバー



藤田医科大学
稲垣凛々子



鈴鹿医療科学大学
鈴木琴葉



藤田医科大学
牧野美空



藤田医科大学
山口真央



鈴鹿医療科学大学
白上鈴果



藤田医科大学
森田菜生



藤田医科大学
牧之瀬ひかり



藤田医科大学
中島沙和代



藤田医科大学
大場千寿



藤田医科大学
若井颯汰



藤田医科大学
二宮凰歌

沢山のご応募お待ちしております！！

お問い合わせ

臨床検査技師学生団体SOLS mail : sols.100ninkai@9mail.com



令和8年度日臨技中部圏支部
医学検査学会(第64回)

技術力・連携力・応用力・人間力・創造力
臨床検査の「力」で
未来を拓く



開催日

2026年10月31日(土)~11月1日(日)

会場

長良川国際会議場(岐阜市)

学会長

森本剛史(松波総合病院)

主催 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会中部圏支部
担当 一般社団法人岐阜県臨床検査技師会



日臨技中部圏支部医学検査学会 開催地一覧

開催年月日	開催地	学会長	実行委員長	担当県	備考
昭和37.12.02	名古屋市	内藤甚之助		愛知県	東海衛生検査学会
昭和38.11.17	名古屋市			愛知県	東海衛生検査学会
昭和39.11.08	津市	森下正一郎	渡辺 一郎	三重県	中部衛生検査学会
昭和40.11.07	岐阜市	岸 正弘	長山 千秋	岐阜県	
昭和41.10.16-17	富山市	田中 由清	白潟 智旨	富山県	
昭和42.11.12-13	静岡市	石川 徳市	石川 徳市	静岡県	
昭和43.09.29-30	金沢市	川越 晶男	北浜幸二郎	石川県	
昭和44.11.22-22	名古屋市	外山 博治	平子 隆夫	愛知県	
昭和45.11.21-23	津市	安立 公典		三重県	
昭和47.03.19-20	岐阜市	岸 正弘	宮脇 静夫	岐阜県	
昭和47.11.03-04	富山市	田口 由清	白潟 智旨	富山県	
昭和48.11.03-04	静岡市	小林芳次郎	中村 茂	静岡県	
昭和49.11.20-21	金沢市	橋本 泉	山岸 幸造	石川県	
昭和50.09.13-14	名古屋市	青木 哲雄	早田 繁雄	愛知県	
昭和51.11.20-21	津市	加藤 民夫	藤本 多秀	三重県	中部臨床衛生検査学会
昭和52.10.01-02	笠松町	牛越 正直	牧田 巖	岐阜県	
昭和53.09.30-10.01	富山市	水野 俊郎	島倉 昇平	富山県	
昭和54.09.29-30	静岡市	桑原 勇一	石黒 満	静岡県	
昭和55.09.27-28	金沢市	石見 為信	二俣 秀夫	石川県	
昭和56.10.24-25	名古屋市	早田 繁雄	岩田 幸男	愛知県	第20回記念学会
昭和57.10.09-10	津市	中尾 哲也	加藤 仁	三重県	
昭和58.09.24-25	笠松町	大橋 繁夫	牧田 巖	岐阜県	
昭和59.09.22-23	富山市	浜松 潔	香取 幸治	富山県	
昭和60.09.15-16	静岡市	岡山 虎男	石黒 満	静岡県	
昭和61.09.20-21	金沢市	奥村 次郎	二俣 秀夫	石川県	
昭和62.10.31-11.01	名古屋市	中根 清司	小笠原正樹	愛知県	
昭和63.10.08-09	志摩市	加藤 仁	奥山 理	三重県	
平成元年.09.22-23	岐阜市	大橋 繁夫	中村 茂孝	岐阜県	
平成02.09.22-23	富山市	城野 晃	本郷 忠彦	富山県	
平成03.11.03-04	浜松市	岡山 虎男	宇佐 見元章	静岡県	第30回記念学会
平成04.09.26-27	小松市	二俣 秀夫	宮本 諭	石川県	
平成05.11.06-07	名古屋市	中根 清司	稲垣 勇夫	愛知県	
平成06.10.29-30	津市	根子 勇	小林 圭二	三重県	
平成07.10.21-22	岐阜市	岡田 基	大倉 靖雄	岐阜県	
平成08.09.21-22	富山市	松下 敏昭	吉田 稔	富山県	
平成09.11.02-03	静岡市	川越 功	加瀬沢信彦	静岡県	
平成10.09.26-27	金沢市	宮本 諭	山根 邦夫	石川県	
平成11.10.02-03	名古屋市	稲垣 勇夫	荻津 直通	愛知県	中部医学検査学会
平成12.9.23	四日市市	中垣 茂男	瀬川 善樹	三重県	
平成13.10.20-21	高山市	山城 光俊	北村 顕	岐阜県	
平成14.10.05-06	富山市	山本 貞明	宮本 藤之	富山県	
平成15.10.11-12	浜松市	柴崎 光三	高木 義弘	静岡県	
平成16.10.09-10	金沢市	高畠外美子	百成 富男	石川県	
平成17.10.22-23	名古屋市	荻津 直通	松本 祐之	愛知県	
平成18.09.23	津市	中垣 茂男	瀬古 義雄	三重県	
平成19.09.29-30	大垣市	北村 顕	安藤 千秋	岐阜県	
平成20.10.04-05	富山市	宮本 藤之	今村 伸一	富山県	
平成21.11.07-08	三島市	泉 和正	高島 吉則	静岡県	
平成22.09.18-19	金沢市	油野 友二	山崎 美智子	石川県	
平成23.10.22-23	名古屋市	松本 祐之	岸 孝彦	愛知県	第50回記念大会
平成24.11.03-04	多治見市	北村 顕	深津 隆	岐阜県	中部圏支部学会
平成25.11.23-24	津市	小林 圭二	上野 尚幸	三重県	
平成26.09.27-28	富山市	今村 伸一	成瀬 智	富山県	
平成27.09.26-27	静岡市	三宅 和秀	山口 浩司	静岡県	
平成28.12.10-11	金沢市	油野 友二	長原 三輝雄	石川県	
平成29.09.30-10.01	名古屋市	榎山 広美	所 嘉朗	愛知県	
平成30.11.24-25	津市	山本 幸治	別當 勝紀	三重県	
令和元年.10.12-13	岐阜市	浅野 敦	高崎 昭彦	岐阜県	
令和3.09.25-10.24	富山市	南部 重一	澤井 真史	富山県	Web開催（オンデマンド）
令和4.10.08-09	沼津市	須田 達也	羽切 政仁	静岡県	後日オンデマンド配信
令和5.12.02-03	金沢市	長原 三輝雄	大江 宏康	石川県	後日オンデマンド配信
令和6.11.02-03	名古屋市	藤田 孝	内田 一豊	愛知県	
令和7.11.01-02	津市	宇城 研悟	別所 裕二	三重県	



ランチョンセミナー協賛企業

* 50 音順

アストラゼネカ株式会社
アボットジャパン合同会社
サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社
シスメックス株式会社
シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
積水メディカル株式会社
東ソー株式会社
日本光電工業株式会社
ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社

プログラム集広告協賛企業 (カラー)

株式会社アド近鉄
バイオメリュー・ジャパン株式会社
ベックマン・コールター株式会社

プログラム集広告協賛企業 (モノクロ)

アークレイマーケティング株式会社
栄研化学株式会社
オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス株式会社
株式会社カイノス
株式会社 栄屋理化
株式会社テクノメディカ
株式会社 LSI メディエンス
キヤノンメディカルシステムズ株式会社
キヤノンメディカルダイアグノスティクス株式会社
公益社団法人 松阪地区医師会
シスメックス株式会社
シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
ニッポーボーメディカル株式会社
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社
バイオメリュー・ジャパン株式会社
フクダ電子株式会社
富士フイルム和光純薬株式会社
ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社



機器試薬展示協賛企業

* 50 音順

Dakewe (Shenzhen) medical equipment Co., Ltd
H.U. フロンティア株式会社
PHC 株式会社
アイ・エル・ジャパン株式会社
アルフレッサ ファーマ株式会社
栄研化学株式会社
オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社
株式会社エイアンドティー
株式会社 HNC
株式会社タウンズ
株式会社テクノメディカ
株式会社堀場製作所
株式会社ミズホメディー
岐阜大学微生物遺伝資源保存センター
キヤノンメディカルシステムズ株式会社
極東製薬工業株式会社
シスメックス株式会社
島津ダイアグノスティックス株式会社
シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティックス株式会社
東ソー株式会社
東洋羽毛東海販売株式会社
東洋紡株式会社
チェスト株式会社
ニプロ株式会社
日本光電工業株式会社
日本電子株式会社
バイオメリュー・ジャパン株式会社
富士フイルムメディカル株式会社
富士フイルム和光純薬株式会社
ベックマン・コールター株式会社
ラジオメーター株式会社
ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

ネームホルダー協賛

株式会社じほう



寄付協賛

* 50 音順

伊勢久株式会社
株式会社ビー・エム・エル

三重県企画協賛

医歯薬出版株式会社
伊勢久株式会社
株式会社 CGI
株式会社エヌケーティー
株式会社津松菱
シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社
松阪市民病院



役員一覧

担当	氏名	勤務先
学会長	宇城 研悟	松阪市民病院
実行委員長	別所 裕二	JA 三重厚生連三重北医療センター菰野厚生病院
副実行委員長	広瀬 逸子	社会医療法人峰和会 鈴鹿回生病院
事務局長	坂下 文康	地方独立行政法人 三重県立総合医療センター
事務担当	海住 博之	地方独立行政法人 三重県立総合医療センター
運営担当	林 豊	社会福祉法人恩賜財団 済生会松阪総合病院
広報担当	柿本 将秀	医療法人 三重ハートセンター
会計担当	西村 はるか	松阪市民病院